

第2章

山形大学教員研修会 「第4回 教養教育FD合宿セミナー」

平成16年度教養教育改善充実特別事業
第4回山形大学教養教育FD合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」



日時：平成16年8月2日(月)～4日(水)
場所：山形大学蔵王山寮(電話023-694-9669)
主催：山形大学教育方法等改善委員会
山形大学高等教育研究企画センター
共催：地域ネットワークFD“樹永”

第4回 教養教育FD合宿セミナーパンフレットの抜粋

F D合宿セミナーに当たって

山形大学は6学部を擁する総合大学です。教養教育は、総合大学の特性を有効に活用するために全学出動体制を採っており、それは山形大学の大きな個性にもなっています。学部の垣根を越え、山形大学全体の教育を考える上で、教養教育は全ての教員の共通基盤となるものです。また、生き残りをかけた大学改革に際し、授業の充実は最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は、「個々の教員が、山形大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法などについて、あたらめて主体的に検討し、再構築していただくこと」です。この目的を達成するために、まず、参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして、そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは、既に広く知られています。

セミナーは、本学への参画意識を高めるための2つのプログラムと、シラバスを作成するための3つのプログラムから構成されています。各プログラムは、グループ作業を中心に組まれており、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また、「教養教育を素材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が山形大学の教養教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「山形大学の構成員こそが山形大学の財産」という精神でのぞんでいます。



【第1チーム】



【第2チーム】

第4回 山形大学教養教育FD合宿セミナー日程表（各日程共通）

第1チーム 8月2日（月）～3日（火）

第2チーム 8月3日（火）～4日（水）

第1日目

時刻	項目	担当
12:50	山形大学集合・受付（正門付近）	事務
13:00	送迎バス 大学出発（バス内で自己紹介）	
14:00	会場到着 セミナー開会 学長あいさつ	司会：DR
14:30	アイスプレ・キング	LA1
14:40	オリエンテーション	DR
15:00～16:30	プログラム 「山形大学のニーズと課題」	DR
16:30～16:40	休憩（10分間）	
16:40～18:10	プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」	DR
18:10	休憩・夕食など	
19:30～21:00	プログラム 「科目設計1：授業名と目標の設定」	LA1
21:00～21:10	休憩（10分間）	
21:10～22:30	懇親会	LA1
22:30	中締め	
23:00	就寝	

第2日目

時刻	項目	担当
7:30～	朝食・部屋退出	
8:30～10:00	プログラム 「科目設計2：授業内容の作成」	LA2
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラム 「科目設計3：シラバスの完成」	LA2
11:40～	修了式	DR
12:20～	昼食	
14:30	送迎バス 蔵王山寮出発（第2チームは13:30）	
16:00頃	大学到着 解散（第2チームは15:00頃）	

【留意事項】

セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

セミナー期間中の個人の呼称は、「さん」とします。

食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。

1日目の入浴時間は設けておりませんので、18:10～19:30の時間帯で御利用ください。

起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。

退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。

オリエンテーション

(担当：DR)

1 FDの必要性

大学の社会的教育責務の明確化
大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
大学生の質の変化への対応

2 合宿セミナーの目的

教員個人が大学を支えること的位置付け
教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などを
あらためて整理する。
教員相互の交流

3 セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する
学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

セミナーのグループ構成：5班

班の構成員の年齢は幅広くする。「プログラム・ 」と「プログラム・ 」
で，班構成を替える。

各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く。(各班の持ち回り)

各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く。(持ち回り)

全体と各班の記録係は，各プログラム終了後に記録を提出(この記録は，コピーした後，
速やかに全班に配布)

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表と
質疑応答に対し，5段階で評価を与える。(この評価は，毎回回収し，整理した後，速や
かに掲示する。)

合宿セミナーに関するポストアンケートを実施

4 各プログラムの基本的形態

各プログラムの講師による作業内容の説明 10分

グループ作業 40分

発表 各グループ 20分

(各グループの発表時間4分×5班)

全体討論 20分

全体で 90分



平成 16 年度 第 4 回山形大学教養教育 F D 合宿セミナー
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」

セミナーの形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

班構成：5 班 班の構成員の年齢は幅広くする。班は、参加者を見て、当日までに委員会で決定しておく。

「プログラム Ⅰ」と「プログラム Ⅱ」で、班構成を入れ替える。

各セミナーに、毎回、司会者と記録係を置く。(各班の持ち回り)

各班に、毎回、司会者、記録係及び発表者を置く。(持ち回り)

各プログラムの基本的構成

各プログラムを担当する講師による作業内容の説明	10 分
班ごとの作業	40 分
発表 各班の発表時間 4 分 × 5 班	20 分
全体討論	20 分

全体と各班の記録係は、A 4 版 1 枚程度に記録をまとめ、各プログラム終了後に提出する。(この記録は、コピーした後、速やかに参加者全員に配布)

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で、各参加者が各班の発表(各 4 分で計 20 分)と質疑応答に対して評価する。5 段階評価とし個人は 15 点の持ち点を有する。

(この評価は、毎回回収し、整理した後、速やかに全班に配布)

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

各班同じテーマ 次のプログラムも念頭に置く。

山形大学の分析

- ・山形大学の置かれている状況分析
- ・社会的ニーズ
- ・長所
- ・短所
- ・現実的な制約・問題点、改革の必要性など

プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

プログラム の問題点等を踏まえた上で、山形大学の教育機能を十分に発揮するためには、これからどのようなことを考え、実行していかなければならないか、具体的に提案する。

山形大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標、山形大学の「個性」と「売り」をどうするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

山形大学の「売り」を作る企画が求められる。

理念・目標

- ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
- ・個性的な山形大学像(理念・目標, キャッチフレーズ)

方略(考えられるいくつかの方法, 実現の可能性)

実行計画(主な活動, 資源, 時期, 担当, 責任, 具体的企画書等)

- ・その宣伝・普及の方法(3 年計画案)

評価(測定方法, 学生, 教員)

- ・目標が達成できたかどうかを検証する。

プログラム 「科目設計 1：授業名と目標の設定」

各授業に分かれ、以下の指定された授業において適当な科目を作り、その科目名（名は体を表す科目名）とその学習目標を明らかにする。履修の時期も明確にする。

A 班：山形大学の個性を発揮する授業

B 班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携

C 班：21 世紀の諸課題に対応する授業

D 班：倫理性・公共性を培う授業

E 班：職業意識と労働意欲を培う授業

F 班：山形大学の個性を発揮する授業

< F 班は、第 1 チームのみ >

プログラム 「科目設計 2：授業内容の作成」

学習方略

授業内容（順次性を踏まえて設計）

授業の方法（講義、ビデオ、見学、調査、討論、担当教員等）

ここでは、「科目設計 1」で作った科目の授業内容を設計する。原則として、週に 1 回 90 分授業を 15 回実施するとして、15 回分の授業内容（方略）を設計する。授業の順序と各回の内容、授業法、媒体、資源などを現実的に示す。方略を設計するに当たり、目標の修正が必要になるかもしれない。この場合は、目標を手直しする。

プログラム 「科目設計 3：シラバスの完成」

「科目設計 2」で設計した授業内容を手直しし、「評価」の項を加え、シラバスを完成させる。

成績評価

評価項目

評価方法

評価比重（%）

各チームごとの担当 DR・LA

第 1 チーム担当			第 2 チーム担当		
D	R	小田 隆治	D	R	元木 幸一
LA	1	中村 三春	LA	1	須賀 一好
LA	2	丸山 俊明	LA	2	江間 史明

各グループの課題

プログラム

グループ	課題
共通	山形大学のニーズと課題

プログラム

グループ	課題
共通	山形大学をどのような大学にするか

プログラム ~

グループ	課題
A 班	1 山形大学の個性を発揮する授業
B 班	2 地域性と関連する授業：大学と地域の連携
C 班	3 21 世紀の諸課題に対応する授業
D 班	4 倫理性・公共性を培う授業
E 班	5 職業意識と労働意欲を培う授業
F 班	1 山形大学の個性を発揮する授業

< F 班は、第 1 チームのみ >

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

(担当：DR)

各班同じテーマ プログラム も念頭に置く。
現実的，具体的に解析する。

- 1 山形大学には何が求められているか？
 - ・社会は山形大学に何を求めているか？
 - ・学生のニーズ
- 2 山形大学の置かれている状況分析
 - ・そこには，どのような課題（問題）があるか？
 - ・長所
 - ・短所
 - ・その生じさせている理由・原因は何か？
- 3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

(担当：DR)

プログラム の問題点などを踏まえた上で，山形大学の教育機能を十分に発揮するには，これからどのようなことを考え，実行していかなければならないか，具体的に提案する。山形大学の理念・目標を実現するための具体的な行動目標，山形大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが，個性あふれる現実的企画を期待する。

山形大学の「売り」を作る企画が求められている。

- 1 山形大学の理念・目標
 - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
 - ・個性的な山形大学像（理念・目標，キャッチフレーズ）
- 2 方略（考えられるいくつかの方法，実現の可能性）
- 3 実行計画（主な活動，資源，時期，担当，責任，具体的企画書など）
 - ・その宣伝・普及の方法（3年計画案）
 - ・組織論（学部，学生の入口と出口（入試制度と就職），学長と副学長制，委員会など）
- 4 評価（測定方法，学生，教員）
 - ・目標が達成できたかどうかを検証する

プログラム 「科目設計 1：授業名と目標の設定」

(担当：L A 1)

ここでの課題

シラバス作成作業の第1段階として、各グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラム ~ の各グループの課題

- A班：山形大学の個性を發揮する授業
- B班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- C班：21世紀の諸課題に対応する授業
- D班：倫理性・公共性を培う授業
- E班：職業意識と労働意欲を培う授業
- F班：山形大学の個性を發揮する授業

作業1 授業名の決定： (仮称) 内容確定後、最後に決定？

作業2 学習目標の設定

1 踏まえておくべきことから：

- (1) 教員中心ではなく、学生による学習を中心に考える (教員の果たすべき役割の再検討)
- (2) 山形大学に対する社会的ニーズ
- (3) 山形大学の全体的な教育目標

註：(1)について

大学の役割

講義の提供

学生から独立

学力差を明確にする

成功へ向けて

伝授する資源の重視

資源の量と質の重視

入学生の質の重視

カリキュラムの発展と拡大

大学の質・内容の質

使命

知識の提供・伝授

コース・プログラムの提供

教育の質の改善

多様な学生への対応

教育

教員中心・知識伝授

教育の質

指導者としての教員

個人的・受動的学習

学習方法と教育方法のデザイナー

教員と学生を一つのチームと考える

すべての学生の能力と才能を引き出す

学習と学生の成功の産物を重視

産物の量と質を重視

卒業生の質を重視

学習技法の発展と拡大

学生の学習の質

学習を生み出し、知識の発見と形成へ

強力な学習環境の提供

学習の質の改善

多様な学生を卒業させる

学生中心・知識発見

学習の質、学習効果・効率

学生の才能・能力を引き出す助言者

共同的・行動的・能動的学習

2 学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は、教育の受け手 (学習の主体) である学生の変容で評価されるべきである。そのために、授業の目標と到達目標を定める。

註：授業の目標を作成する際の注意点

原則

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 学習の結果、いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

- (1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する。
- (2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる。
知る，認識する，理解する，感ずる，判断する，評価する，考察する，位置付ける，実施する，適用する，示す，創造する，身に付ける，等々
単純な行動を示す動詞は用いない(述べる，列挙する，選ぶ，記載する等々)
- (3) 必要な目標分類(認知・態度・技能)を総括的に含める。

註：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるとよいか，具体的に明示する。

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 動詞を含むこと
- (3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく，観察可能な行動を具体的に表す
- (4) 授業の目標と関連していること
- (5) 到達レベルを書く
- (6) 認知，態度，技能を分けて書く

知識(認知領域): 知識を得て理解し，一定の能力を獲得する

述べる，説明する，分類する，比較する，解釈する，推論する，一般化する，適用する，結論する，批判する，評価する，等々の動詞

技能(精神運動領域): 知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する

感ずる，始める，模倣する，工夫する，行う，創造する，触れる，調べる，準備する，測定する，等々の動詞

態度・習慣(情意領域): 獲得した知識・能力を，情報として相互に提供・交換し合う

行う，コミュニケーションする，協調する，示す，表現する，系統立てる，参加する，応える，等々の動詞

プログラム 「科目設計2：授業内容の作成」

(担当：L A 2)

ここでの課題

プログラム「科目設計1」で作成した授業について，学習方法と道筋(戦略，学習方略)を明示する。具体的には，学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の種類と順序を示す。

作業

原則として，週に1回90分の授業を15回実施するものとして，授業の内容を考えてみる。その際，授業の順序と各回の内容，学習法，利用する媒体，資源などについて明示する。内容によっては，授業の目標，到達目標，さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。

註：学習方法の種類

- (1) 受動的学習法：講義など
- (2) 能動的学習法：グループ討議(演習，セミナー，ディベートなど)
実験・実習
自習(読書，個人研究，コンピュータ活用学習など)

註：学習のための資源

- (1) 人的な面で：
- (2) 物的な面で： 場所
媒体（スライド，OHP，標本，VTRなど）
- (3) 予算

プログラム 「科目設計3：シラバスの完成」

（担当：LA2）

ここでの課題

プログラム 「科目設計2」で作成した授業について，シラバスを完成する。

成績評価

その位置付け

- (1) 教育評価は，学生，教員，カリキュラム（目標，学習方法の立案（方略），評価）の三者が対象
- (2) 成績評価は，その中の一つ。

留意点

- (1) どの行動領域を評価するか
知識（認知領域）
技能（精神運動領域）
態度・習慣（情意領域）
- (2) いつ評価するか
学習前（プレテスト）
学習中（中間テスト）
学習終了後（ポストテスト）
フォローアップ・テスト
- (3) 評価の目的
形成的評価：学生が理解している点，理解が不足している点を発見し，学習法，教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない。
総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する。
- (4) いかに評価するか，複数の評価項目のウェイト
論述試験
口頭試験
客観試験
実地試験
観察試験
論文（レポート）

評価の持つべき性格

- (1) 妥当性：計測しようと意図する項目を計測できる方法か？
- (2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？
- (3) 客観性：計測者（教員）が替わっても，同じ結果が得られるか？
- (4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？
- (5) 特異性：なぜ，そういう解答がなされたか分かるか？

各プログラムの記録【第1チーム】

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

グループ作業記録

フェーン班

司会者 岩田 尚能
記録者
発表者

1 山形大学に何が求められているか？

(社会のニーズ)

地域との連携

人材の教育，専門と社会ニーズとのつながり

現実からもっと教育向きに

親から，就職できる

知識より問題解決能力

仕事を作り出し

経済だけではなく人文学部はニーズとの独立性(文系)

(学生のニーズ)

楽しく，ながら

社会の現状から心の豊かさを

自己の存在感が社会に示しこと，能力をつけ

学生のニーズかならずしも社会のニーズと一致しない(文系)

即戦力

2 山形大学の置かれている状況分析

課題： 定員確保

長所： 教員と学生面倒見良い，規模適切

短所： 就職難 タコ足学校

原因： 立地原因

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

東京の学生をこちらに招く



佐藤錦班

司会者 清塚 邦彦
記録者 及川 一美
発表者 方 青

1 山形大学に何が求められているか？

山形県においてリーダーシップを取って欲しい
地域における看護の質の向上，公開講座等
リーダーシップを取れる学生を育てる
学びが社会の要求に対応しているか？
山形は大学も行政も分割している，人脈のネットワークがある
そのような良い面を知っているリーダーを育てたい

2 山形大学の置かれている状況分析

(長所)

看護関連では地域と連携がある
入りやすい国立大

(短所)

関連ある県内他大学との役割分担がとれているか
学費や施設の面で負けている面がある
看護関連では全国でも早い時期に創立された
全国に教員を輩出している，その伝統を生かせるか？

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

入りやすい国立大という面で，学力の低い学生が入ってくる
コンプレックスを持っている学生もいる，そのような学生を
他大学にも負けない学生を育てられるか？
施設が古い 新しい設備へ



さくらんぼ班

司会者 尾方 隆司
 記録者 北原 哲夫
 発表者 早瀬 勝明

1 山形大学に何が求められているか？

- ・産学連携 医工の連携・融合
- ・地域貢献
- ・高大連携 出前授業
- ・卒業後の進路等のビジョンの明確化

} 学生の意識にもつながる

2 山形大学の置かれている状況分析

(長所)

- ・東北には少ない総合大学
- ・工学部歴史ある，農学部 米・果物 特徴あり
- ・研究が可能（フィールドワーク等）
- ・人文 - 米沢の歴史に興味をもつ

(短所)

- ・タコ足による人的負担等の弊害
- ・大学全体のビジョンが不明確
- ・情報データベースがあるのに有効に発信されていない

(教育理念・方針)

- ・キャッチフレーズ～皆でつみ上げる
- ・山形大学の第一志望でかい

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・セミナー，研究所設置の努力

コーボルト班

司会者 本多 薫
 記録者 瀬尾 和哉
 発表者 米村 祥央

1 山形大学に何が求められているか？

)社会は山形大に何を求めているか？

- ・総合大学の特性を生かした広く学習する機会
- ・地域への貢献，世界への貢献
- ・社会人教育の充実

)学生のニーズ

- ・良い就職
- ・技習得

2 山形大学の置かれている状況分析

(長所)

- ・県の支援があつて，TV授業システムの開発 b/o 分散キャンパス

(短所)

- ・1年間アパート，分散図書館 b/o 分散キャンパス

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・就職率の低さ
- ・分散キャンパス
- ・地元指向 too much

出羽桜班

司会者 大貫 義人
記録者 天羽 優子
発表者 岡田 修司

1 山形大学に何が求められているか？

社会が求めていること

- ・山形県を支える人材の供給，地元企業の技術的支援，北°コオリター - 県庁トップは山形大
- ・即戦力を求めているが，一方基礎的な教育も要求されている？ OB,OGが多いという
- ・社会を教育する，生涯学習など 実績
- ・マニアックな人材を欲しがっている（特にコンピュータ関係など）...専門学校卒

学生のニーズ

- ・山形で就職するためのチャンネルがほしい
- ・むしろ全国に就職していく（工学部）
- ・学校推薦で増やす
- ・県のトップが行く学校...ブランド指向があった
- ・就職を目指すニーズと専門を活かすニーズの両方に対応
- ・学生の質も変わっている（昔の高校位）

2 山形大学の置かれている状況分析

即戦力について

- ・人文系の場合，コミュニケーション能力重視（営業する人が多い）
むしろ専門を捨てないと企業に迷惑がかかる

長 所

自然にめぐまれている
遊ぶ所が少ない
総合大学である...学部間の協調

短 所

キャンパスの距離ありすぎ
特徴が見えてこない
情報公開が足りない（カタログ，パンフ以上の情報を）

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

教育学部・農学部改組
委員にまかせるだけでなく皆で動く（権限の適切な委譲）

セブンスターズ班

司会者 佐多不二男
 記録者 安中 武幸
 発表者 玉手 英利

1 山形大学に何が求められているか？

【社会は】

- ・地域に密接...人材（山形に残って活躍する，それぞれの分野）
- ・工学部...地場産業に要請に応えること，ともに世界に通じるもの
- ・医学部...できた経緯（忘れがち）

他に代替りのない
存在になることが
重要！

【学生】

- ・山大に学びを期待する全ての市民を
対象としては...（対象を広く考える）
- ・東北地方の大学は数少なく，存在価値ある
- ・農学部 庄内出身者極めて少ない
- ・市民講座：ニーズをふまえたおもしろいテーマなら人は集まる
宇大では高校生に単位出す取組みしている
- ・就職（人文）：公務員（あまり良くない）

市民が必要と
しているものを
つかむ

↓
山大ブランドが弱い

2 山形大学の置かれている状況分析

- ・たこ足大学：スタッフ・学生ともに不利...
地域ごとに拠点があること長所
- ・知識の共有化（発信者がバラバラ）
始まったばかり，遅れている

プラットフォーム（インキュベーション）欲しい

他分野との
連携を促進
する場

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

- ・学部，学科の壁を低くすること
- ・ナレッジマネジメントのような具体的活動が必要



全体会記録

総合司会
記録者

総合司会：各班の発表のまとめ

フェーン班

1. 何が求められているのか？
 - ・人材教育と社会的ニーズとのつながり
 - ・就職できるのは、知識よりも問題解決能力
 - ・ニーズに答えるばかりでなく、大学の独自性 骨太の大学？
 - ・楽しい4年間+就職
 - ・自分の存在感を社会に示す能力
2. 長所
 - ・教員とのつながり、面倒見
- 短所
 - ・地元志向、就職難
 - ・立地
3. 県外の人をひきつける方策

さとうにしき班

1. 地域に定着する人材の育成

在学 受験 留学生 社会人	}	のニーズ
------------------------	---	------
2. 長所
 - ・地域医療への貢献
 - ・入りやすい国立大
- 短所
 - ・他大学との差別化（東北大学）
 - ・外へ出る学生
3. 学力の低い学生 コンプレックス
学費を安く、たてものを新しく

さくらんぼ班

1.
 - ・産学連携
 - ・地域貢献
 - ・ビジョンの明確化
 - ・高大連携
 - ・進路
2. 長所
 - ・総合大学
 - ・地域に根ざした研究
- 短所
 - ・タコ足 人的負担
 - ・ビジョンの不明確

コーボルト班

1. ニーズ

社会	地域貢献 広く学べる、社会人入学 大学院の充実
学生	就職 より良い教育・技術
2. 長所
 - ・県の支援
 - ・分散キャンパス TVシステムの充実
- 短所
 - ・分散図書館
 - ・1年間アパート

3. 現 実

就職率の低さ
地元志向 プラスに持っていけないか

出羽桜班

1. 何が求められているか

県を支える人材
社会 社会人教育
オピニオンリーダー，産学協同

即戦力 ブランドではなく

学生 就職

2. 長 所

・自然にめぐまれている，総合大学

短 所

・キャンパスが離れている
・典型的な地方大学

3. 改 革

情報公開
マンパワー
教育・農 改組
委員にまかせる 皆で動く
総合キャンパス

セブンスターズ

1. 社 会

地域での人材
学 生
就職

2. インフラ整備

3. 改 革

具体的なプラン
知識の共有化 新たなコア，学部にかわる
ハード
ソフト（たてわり意識の打破）
インセンティブ

プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

グループ作業記録

フェーン班

司会者 岩田 尚能
 記録者 廣瀬 俊介
 発表者 平山 公明

1 山形大学の理念・目標

- ・環境（歴史，自然，教員／学生の距離感） 手厚い教育
 - ・全国的に「地域貢献に乘せられ過ぎ」の大学...これに反して
 - ・総合大学の良さ...例えば部活でいろいろなカラーの学生に出会う
 - ・分散 - 総合難...しかし，人間も，学部も，キャンパスも，地域も多彩
- ⇒ 理念，地域分散型総合大学「発想の容器／独立した大学を目指す」

2 地域分散型総合大学に向かう方略

- ⇒ 「知的財産の共有」と「構成員の総合」 人的交流
- A「部活と授業の間の“自主ゼミ”的方法」
 B「異分野教員間セッション」

< 何れも，異分野の総合と能力向上に興味のある
 教員が，まず翻訳者となるべく準備 >
 （そして，A・Bを支える）
 < 授業設計...総合的で，地域的で... >

実践例：「奥の細道」を共通テキストに山寺までの道すじを
 辿りながら，中国哲学史／中国文学／日本史／日本
 文学の教員が講義した（準備に数年かけた）

3 実行計画

- ・1年次の合宿オリエンテーションから，学生の意識，動機にはたらきかける

4 評価

アンケート（学生の満足度）

佐藤錦班

司会者 阿部 茂
記録者 中村 勝
発表者 山下 英一

1 理念・目標

入学し易い大学を校風にする場合、学生の質の低下が問題である
問題解決能力を身につけさせる教育を行なうことができる
個性的な教育・研究が重要である
売りになる研究テーマを基に教育を行う
即戦力にこだわらず、研究能力や社会性をしっかり教育する

2 方略

卒業生（社会人）が修士に入り直すことによって教員との交流が生まれ、
現場のニーズが研究に生かせる
現場の人間を大学に積極的に呼ぶ（新たな関係づくり）
多領域の連携（総合大学としての利点を活かす）
チーム・ティーチング
ホームページで研究と教育をアピールしつづける

3 計画

- 1年目）チームティーチングの計画案の作成
- 2年目）実施する
- 3年目）結果、検討内容、情報などをホームページ上で公開する

4 評価

授業終了（1コマごと）に評価し、次回の授業にフィードバックする
教員相互間の評価



さくらんぼ班

司会者 市村 勉
記録者 村山 秀樹
発表者 中村 篤志

山形大学の「売り」の企画

- ・付加価値
- ・4年後の自分さがし（山大マインド）
- ・フィールドワーク（山形を知る）

→ 山形学

「地域貢献」：前提を無視していないか
「知的財の共有化」 実践の中で
「分散型キャンパス」 逆手にとる

キャッチフレーズ「山形学の創設」

方略

- ・文理融合
- ・フィールドワーク（歴史，出羽三山等）とゼミ
- ・先端研究の見学（有機EL） ・地元企業

実行計画

- 1年目 センターの立ち上げ
担当者の決定（公募を含む）
- 2年目 ピーアール → 学部横断
- 3年目 開講
月1回 土・日 フィールド
翌週ゼミ

評価

- ・地元への定着率
- ・就職率
- ・外部アンケート
- ・受講者希望者数



コーポルト班

司会者 中村 一基
記録者 齋藤 亮子
発表者 皆川 雅朋

キャッチフレーズ

ほんとうの豊かさを考えさせてくれる大学

方略

I T の 充 実 （分散キャンパスの短所をうめるI Tの
誰でも受けられる 充実を大いに利用）
大 学 院 の 充 実 （医療，福祉，観光）
身心の健全な県民性をはぐくむ
精神面，身体面（医療，福祉，予防医学）

実行計画

委員会

各大学，地域代表を含め
委員会を立ち上げる

特区制度の活用

新学園都市構想（山形県全体を）

山大生の犯罪数を減少する...評価項目

事故

平均寿命の延長 罹患率の低下
人材流出が減少
受験生が増加



出羽桜班

司会者 種田 保穂
 記録者 谷 善徳
 発表者 田中 正樹

1 理念・目標(個性的な校風)

- ・目先のことではない大きな目標であり,具体的な特徴のあるもの
- ・山形全体を含めた人間力 ・地域を生かす
- ・教養と実学を兼ね備えた人材育成 矛盾なくリンクさせることが必要
- ・幸せに生きていくためには何が必要か 心の豊かさ
- ・地域に根ざした人間の養成

2 方略

サークル等の人づくりの場を大学が提供
 教員が他分野の学生を受け持つ コミュニケーション能力等の向上 刺激
 ・例 10名程度の少人数制

学生企画型授業 学部を越えた交流の場。教員はアドバイザー
 (学生が能動的にかかわっていけるように)
 単年・単位でのつみ重ね

3 実行計画

資源 学生
 時期 後期から
 責任 アドバイザー(教員)
 担当 チューター制

組織論 全学的に実施し,教養教育実施委員会にて

4 評価

例 就職率
 GPA
 入り口と出口を検証
 実施後の専門

導入前と導入後の実施 GPA就職 (客観的評価)	学生の評価(満足度) (主観的評価)	卒業生(OB・OG)の評価(アンケート)
--------------------------------	-----------------------	----------------------

セブンスターズ班

司会者 佐多不二男
記録者 安中 武幸
発表者 廣瀬 文彦

1 理念・目標

- ・“田舎の太学”：近くにカモシカ (医学部では構内にも...)
自然豊かな大学
 - ・一方，“田舎”への反発 “世界”
自然・環境との調和
 - ・出羽三山：文化・宗教的側面もある，すぐれた人材輩出している
(上杉鷹山)
 - ・紅花
 - ・新しさを入れたい！
 - ・国際交流への貢献している地域
- ⇒ フロンティア from Yamagata (リソースは豊富にある)

都会からの
学生楽しんで
いる

地域文化教えているか
地理・地場産業など
学部横断的に

⇒ 山形学？

2 方略

- ・分散キャンパス活かす
地域密着型 市民公開講座(資格, 単位化...)
〔 face to face 〕
〔 ネット利用 〕

3 実行計画

- 1年目：既存委員会解体，外部専門家を入れて組織作り
マーケット調査(地域のニーズの把握)
- 2年目：・メニューの提示(人材育成) ・プロデューサー(学内外で募る)
〔 地域別 〕 卒業生の活用
〔 ブロック別 〕
- ・インフラ整備
- 3年目：実行...
自己評価(検証)
外部企業や卒業生とともに行なう

全体会記録

総合司会

記録者 深瀬 嘉子

最後の山形学は良いコンセプト（案である）

山大だけでなく地域，外部と連携をとってやるのが重要だ（賛成の声あり）

・わかりやすい形で提示していく必要がある

（学長）各大学が単位を認める（単位互換ではなく，1つのプロジェクトを様々な大学が企画して行なう）

「コンソーシアム山形」

予算 1700 万 今年は公開講座のみ

平年は学生向きの単位互換を視野に

入れた内容のものを考えている

山形学をやることによって目指しているものは連体か？

山形特有の風土があり，それが目に見えない動きを感じる

ニューパラダイムを山形から作ろう

「山形学」は 県民カレッジ 連携して行なう

すでにある

いくつかのプログラムがある

県のスタッフにも入ってもらい，実践の場でも共有していくのが望ましい

「豊かな自然を使った…」は良い

土・日フィールドワークをやる？ そんな時間はあるか？

・時間割に余裕なし

・途中で事故

・ISO，ジャビー関連

工学部

・ジャビーの目標 （8学科3コースが認定とった）

コースごとに学会の依頼で調査員が来る

証拠書類，学生インタビュー，教員インタビュー

施設の安全性

ウィクネスがついた所は2年後に再提出

4年間の学生の試験，成績も保存等大変な作業がある

プログラム 「科目設計1:授業名と目標の設定」

グループ作業記録

心機一転班

司会者 上田 弘毅
 記録者 方 青
 発表者 早瀬 勝明

山形大学の個性：分散型，縦食型，自然型

授業名 川の文化 - 最上川
 各学部の教員が一つのテーマについて講義を行う

- ・保存科学
- ・文化財
- ・土壌関係
- ・都市政策

授業の目標 最上川について様々な視点から考察し，川と人間の関係を総合的に理解することを目的とする

到達目標 最上川の歴史を学生が調査し，報告

- ・交通道具としての最上川
- ・文化財としての最上川
- ・防災
- ・農業における川の利用

それぞれの項目を調査し，それに基づいて調査報告を出す
 最終回に公開の発表を行う

東光班

司会者 市村 勉
 記録者 清塚 邦彦
 発表者 天羽 優子

1 授業名の決定 山形学 (A・B・C・D...)

2 学習目標 (1) 学問的方法について学びつつ，山形について知る
 (2) ・山形について多面的に語れるようにする (認知)
 ・それぞれの分野での調査方法の基礎を身につける (技能)
 ・山形に対する愛着を持つ (態度)
 ・プレゼンテーション能力の向上 (技能)

サブテーマとしてどのようなテーマを設定するか (自然・産業・歴史等) また，学生の提案を優先するか，教員の側で予めメニューを用意しておくか等について検討した

ドッコ沼班

司会者 皆川 雅朋
記録者 中村 篤志
発表者 岩田 尚能

キーワード：地域・環境・食・資源・共生
農産物・海産物の生産・流通・消費

学生の実地調査，報告による学習の深化

学習目標

1. 21世紀の課題として地域環境を取り上げ，特に資源と環境についての具体的問題を発見する
2. 実地に調査することによって自らの問題として実感し，解決方法を探る

(調査方法を学ぶ，情報をまとめる，整理する，
わかりやすく表現する)

到達目標

1. 地域の問題についての情報をまとめ，わかりやすく表現する
2. 調査結果に基づいて，問題解決の方法を提言する

タイトル 「地域環境：資源利用と共生」
キーワード 食・資源・共生

リンリ班

司会者 本多 薫
記録者 尾方 隆司
発表者 佐藤 宏平

1. 授業名 「現代社会の倫理」

2. 学習目標の設定 現代社会で生じている倫理の問題を洗い出す

- (イ) 情報化社会の倫理
- (ロ) 環境に付随する倫理
- (ハ) 人にかかわる倫理問題
 - ・ネチケット，個人情報
 - ・ゴミ，水，空気等適性な維持
 - ・子供，老人の虐待等

3. 現代社会において生じる倫理問題を洗い出し問題としてとらえる(授業目標)
さまざまな局面に思想的に対処し解決に向けて思いやりの行動をおこす(到達目標)

はえぬき班

司会者 瀬尾 和哉
 記録者 馮 忠剛
 発表者 山口 昌樹

職業意識と労働意欲

提案1 各地域の地場産業 現場にどのように -
 特徴産業で 3箇所 全15回
 学生が interview によって...
 学生主体，社会ニーズに，等を踏えた

授業の目標（大）

学習者は各地区の地場産業のなりたちと地域性の関係を理解する
 どういうふうに関係性に結びつくか Plus か
 [生き方を身に出す
 人生設計を考える (life planning)]

到達目標（具体的に）

地場産業の知識を得る，立地条件を理解する
 学生の interview と presentation の能力を身につける
 調査企画をつくる能力（立案）
 人間 communication

授業名 山形のしごと

まご班

司会者 殷 勇
 記録者 玉手 英利
 発表者 及川 一美

“山形大学の個性を發揮する授業”
 山形(大学)特有の授業をする

[参考例 山梨大学「山梨の情報メッセンジャー」
 資格として認める]

山形の個性，大学の個性（2つの個性，特徴を前半・後半に分けて）学生は学ぶ

山形の個性：歴史・伝統・文化・自然誌
 山形の位置付け：外からの視点

大学の個性：導入として
 各学部が題材を提供する
 新しいトピック

具体的目標

- ステップ1 「山形を知り，山形の個性を理解する」
 （「山形の個性」を構成する諸要素を知識として理解する）
- ステップ2 「山形の過去と現在を更に理解するための実践活動を行う」
 例えばフィールドワーク，教員へのインタビュー
- ステップ3 「山形，そして自分に何が必要なのか考察する」
 「未来への提言を示す。新たな山形観を創造する」

授業の目標 「山形大学の学生であることの意味（アイデンティティー）を具体的に認識し，他者に対しても説明できるようになり学習に対する意欲をもつようになる

全体会記録

総合司会

記録者 皆川 雅朋

心機一転班

山形大学の個性を發揮
総合大学...

学部連携授業

テーマ：川の文化

学習目標：さまざまな視点
到達目標：調査報告，公開発表会

東光班

調査と発表

山形学（A・B・C・D...）

複数の課題選定

学習目標：学問的方法論

（エッセンスを早い時期に体験してもらう）

到達目標：方法論の基礎

多面的に，プレゼンテーションを上手に行なう

ドッコ沼班

21世紀の課題

地域環境：資源利用と共生

学習目標 自らの課題として実感し，解決方法をさぐる
実地調査

到達目標 わかり易く発表し，提言してもらう

質問：山梨大学の先生

教員はどう関与するのか？

基本的に学生達が計画，実施

座学...

再び ゼミ形式，でもやれるのでは？

地域の特徴を生かす事で山形県全域で取り組む事ができる

必要な3単位の認定も可能である

リンリ班

「現代社会の倫理」

情報・環境・人間

到達目標 長崎の事件でも分かるように...

適正規程での生活

規範性...

さまざまな局面で

よく考えて対処できるような

規範を身につける

質問なし

はえぬき班

山形の仕事

地場産業とは何かについて理解を深める

1)何をやりがいにしているのか？を聞いてみたい

学習目標：職業意識と地域性の関係

卒業後の自分の仕事のイメージをつかむため

プログラム 「科目設計2：授業内容の作成」

グループ作業記録

心機一転班

司会者 上田 弘毅
 記録者 米村 祥央
 発表者 安中 武幸

川の文化 - 最上川 -
 学生 30名 (5名 × 6グループ)

3つのテーマを各4回でまとめる
 (3人の教員)

最終回にグループが全体をまとめた
 プレゼンテーション

- 1 ガイダンス (授業の進め方, 最上川はこんな川...舟唄)
- 2 } “最上川の防災” 講義
- 3 } 調査ポイントの説明 学生打合せ
- 4 } 調査結果に対する教員の指導
- 5 } プレゼンテーション
- 6 } “最上川と農業” 講義
- 7 } } と同様
- 8 } }
- 9 } プレゼンテーション
- 10 } “最上川の歴史” 講義
- 11 } } と同様
- 12 } }
- 13 } プレゼンテーション
- 14 総合的な視点の討論 (教員 3名)
- 15 総合プレゼンテーション

可能であれば時間外の現地見学・調査をおこなう

東 光 班

司会者 大貫 義人
記録者 山下 英一
発表者

授 業 名 「山形学」

- 1 山形学概論 (教員 A or B or C)
- 2 人文概論 (教員 A 方 文献研究 etc)
- 3 社会概論 (教員 B 法 調査 etc)
- 4 自然概論 (教員 C 論 準備 実験 実習 etc)

5 チーム編成

6 チーム A

7 出羽三山文化

8 米沢文化

9 草木塔

10 山寺

11 解説 & 見学

チーム B

酒田・鶴岡を中心に

した文化

超高れい化社会

経済

福祉

チーム C

山・川

地形図, 空中写真

その他資料の提示

+

現地での実習

-
- 12 }
13 } 発表
14 }
15 総カツ

教員 3名
学生 90名



ドッコ沼班

司会者 篠塚千恵子
記録者 種田 保穂
発表者 村山 秀樹

タイトル 「山形の今と未来 - 地域社会の諸問題を考える - 」

授業計画

受講者数：30名

授業方法

講義 + フィールドワーク

日 程

- 1 講義「食と資源」
- 2 " 「医療と福祉」
- 3 " 「エネルギーとリサイクル」
- 4 グループ学習のオリエンテーション
フィールドワークの説明
グループ分け
- 5 テーマの設定
- 6 }
7 } フィールドワーク
8 }
- 9 中間報告，質問表提出
- 10 } フィールドワーク
11 }
- 12 }
13 } プレゼンテーション
14 }
- 15 総括

学習のための資源

- (1) 人的な面：3名の教員
- (2) 物的な面： 県内各地
媒体，自由
- (3) 予算：学生各自，自費

リ ン リ班

司会者
記録者 齋藤 亮子
発表者

1. 授業名 「現代社会の倫理」

2. 学習目標 現代社会で生じている倫理の問題を洗いだす

3. 15回の計画

1) 第1回ガイダンス(授業目標,到達目標を説明。講義を聞き,情報を集め,研究成果をレポートにまとめ発表し,教員と学生が共に相互評価をする)

2~6回 2) 情報問題 新聞の中から情報にかかわる倫理的
インターネット

教員から問題提起(具体的)問題を探し出させ討議する

(ケーススタディー)

レポート 各分野 考察(ディベート) 意識しない プライバシーの侵害
(問題の深化) 行動 プレーキ 既成の理論

まとめ レポートを書く

(発表,相互評価)

正しい情報

7~10 3) 環境問題 総合的,専門の人材を集めて

・ケーススタディー 問題提起 提言を聞く(エネルギー,生態系 etc)

・シミュレーション 発表 講義 講義をした専門家に全員参加してもらって,質疑

・ディベート 評価 レポート(審判)

・レポート

11~14 4) 人間

3)に同じ

作成時にレポートの発表

5) 相互評価

全体をふまえて,どこかの分野にフォーカスしてレポートをつくる

既成の学問分野の応用の可能性をさぐる

(例 心理学,認知科学,動物行動学)

可視のプライバシー 不可視

どう受け止めるか

何を対処するか

大学におけるフィールドワーク

フィールドワーク論のやれる専門家が必要

(新しいものの発見)

観察 まず示す,やる

はえぬき班

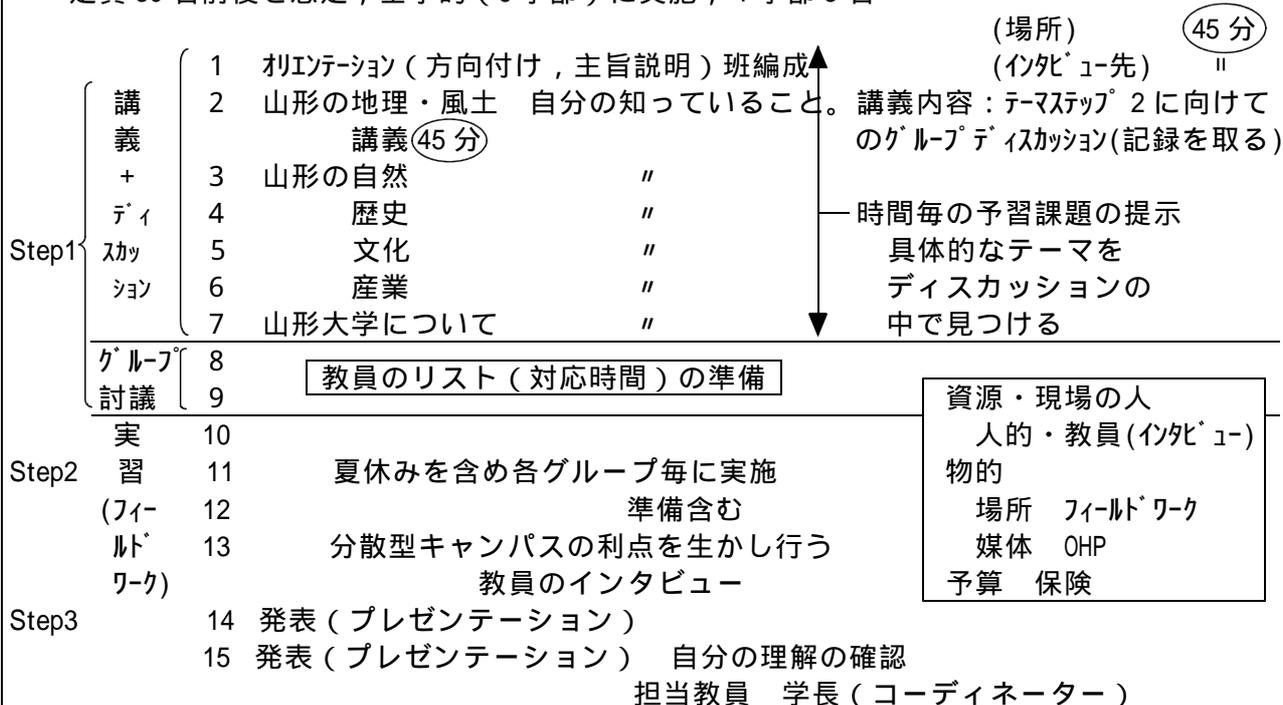
司会者 馮 忠剛
 記録者 山口 昌樹
 発表者 瀬尾 和哉

学習内容	方法
1 ガイダンス	講義
2 調査方法の習得	図書館の利用，インターネットの検索
3 県産業博物館	施設見学
4 山形の自然，産業構造	講義
5 調査計画書の作成	講義
6 計画のプレゼン	プレゼン，PowerPoint
7 //	ディベート
8 ヒアリング	公共交通機関
9 ヒアリング	保険
10 中間報告会	
11 } ヒアリング 2	
12 }	
13 中間報告会	
14 } 最終報告会	企業からの講師
15 }	謝金

まご班

司会者 泉 多恵子
 記録者 谷 善徳
 発表者 中村 一基

山形の個性を発揮する授業 「山形と自分の発見」
 定員 30 名前後を想定，全学的（6 学部）に実施，1 学部 5 名



全体会記録

総合司会 尾方 隆司
 記録者 岡田 修司

はえぬき班 「山形のしごと」		
1 オリエン	8, 9	ヒアリング
2 調査方法習得	10	中間報告会
3 県産業科学館見学	11,12	ヒアリング
4 山形の自然, 産業構造	13	中間報告会
5 調査計画書作成	14,15	最終報告会
6, 7 プレゼン		

まご班 「山形と自分の発見」 30名			
1 オリエン		10 ~ 13	} ステップ 2
2 講義+ディスカッション (45分) (45分)	} ステップ 1	実習, フィールド 夏休みを含め (分散キャンパス活かす) 教員インタビュー	
テ 2 地理		} 14,15	
・ 3 自然			
マ 4 歴史		プレゼンテーション	
さ 5 文化			
が 6 産業			
し 7 山形大			
8, 9 グループ討議		教員担当 学長	

Q : ナンバー 1 でなくオンリー 1 にこの授業してなれるのか？

A : 「アイデンティティ」のところでオンリー 1 になれる！

心機一転班 「川の文化最上川」 30名		
1 ガイダンス	10 ~ 13	歴史 1
2 ~ 5 防災 1 講義		2
2 調査のポイント・進め方		3
3 検討		4
4 グループ発表	14	総合化に向けた全体講義
6 ~ 9 農業水利用 1	15	総合的発表
2		
3		
4		

Q : アカデミックさは？

総合的に人間と川とのかかわりを見るのはアカデミックではないか

東光班 「山形学」

- | | | | |
|--------|--|---------|----|
| 1 | 全体概論 | 12 ~ 14 | 発表 |
| 2 | 人文 " | 15 | 総括 |
| 3 | 社会 " | | |
| 4 | 自然 " | | |
| 5 ~ 7 | チーム編成 30人 × 3チーム
チームA B C
人文 社会 自然 | | |
| 8 ~ 11 | 各チーム調査 | | |

人文 山岳信仰

Q : 人文以外の具体的なテーマは？

社会 高齢化など

自然 地形図など

ドッコ沼班 「山形の今と未来」地域社会の諸問題を考える

- | | | | | | |
|-------|---|------|----|------------------|-----------|
| 1 | 講義「食と資源」 | } 複数 | 9 | 経過報告(中間) | |
| 2 | " 「医療と福祉」 | | の | 10 ~ 11 | フィールドワーク |
| 3 | " 「エネルギーとリサイクル」 | | 教員 | 12 ~ 14 | プレゼンテーション |
| 4 | オリエンテーション
フィールドワークの説明
グループ分け(6グループ) | | 15 | 1時間2グループ発表
総括 | |
| 5 | テーマ設定 | | | | |
| 6 ~ 8 | フィールドワーク | | | | |

Q : テーマ3つは多くないか？

A : 「諸問題」なので、3つくらいが適当と考えている

リンリ班 「現代社会の倫理」

- | | |
|---------|---|
| 1 | オリエン、授業・到達目標
レポートにまとめ発表し、教員・学生の相互評価 |
| 2 ~ 6 | 「情報にかかる問題」
問題提起 - ケーススタディ
既成学問分野の応用の可能性をさぐる
数人の講師の講義
シミュレーション
ディベート
まとめ レポート作成
発表・相互評価 |
| 7 ~ 10 | 「環境にかかる問題」 問題提起 情報と同様な流れ |
| 11 ~ 14 | 「人間にかかる問題」
「環境」と「人間」については選択でレポート作成・発表・相互評価 |

全体討議

Q : 大学でやる「フィールドワーク」がきちんとできるか？発見ができるか？

教員側の資質の問題もある

すばらしいフィールドワークもあるので具体例を提示することは大事！

Q : まご班の「夏休みをはさむ」というのがあったがうまくいくのか？

このテーマはセメスターでは無理。通年とするなど1年間で考える

プログラム 「科目設計3：シラバスの完成」

グループ作業記録

心機一転班

授業科目名 川の文化 - 最上川 - (総合) 担当教員： 3名 担当教員の所属： 開講学年： 1～4年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態： 講義・演習 開講対象： 全学年 科目区分： 一般教育																			
【授業概要】 ・テーマ 川と人間とのかかわり ・ねらい 最上川について様々な視点から考察することで、川と人間との関係を総合的に理解する。 ・目標 最終的に学生が自ら調査し発表する。 総合的な視点で結果をまとめる。 ・キーワード 最上川、災害、水利用、歴史																			
【授業計画】 ・授業の方法 講義において基本的理解を深め、自ら調査し、討議、発表する。 ・日程 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">10. 歴史 講義</td> </tr> <tr> <td>2. 防災 講義</td> <td>11. 調査のポイント・進め方</td> </tr> <tr> <td>3. 調査のポイント・進め方</td> <td>12. 検討</td> </tr> <tr> <td>4. 検討</td> <td>13. グループ発表</td> </tr> <tr> <td>5. グループ発表</td> <td>14. 総合化に向けた全体講義</td> </tr> <tr> <td>6. 農業水利用 講義</td> <td>15. 総合的発表</td> </tr> <tr> <td>7. 調査のポイント・進め方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. グループ発表</td> <td></td> </tr> </table>		1. ガイダンス	10. 歴史 講義	2. 防災 講義	11. 調査のポイント・進め方	3. 調査のポイント・進め方	12. 検討	4. 検討	13. グループ発表	5. グループ発表	14. 総合化に向けた全体講義	6. 農業水利用 講義	15. 総合的発表	7. 調査のポイント・進め方		8. 検討		9. グループ発表	
1. ガイダンス	10. 歴史 講義																		
2. 防災 講義	11. 調査のポイント・進め方																		
3. 調査のポイント・進め方	12. 検討																		
4. 検討	13. グループ発表																		
5. グループ発表	14. 総合化に向けた全体講義																		
6. 農業水利用 講義	15. 総合的発表																		
7. 調査のポイント・進め方																			
8. 検討																			
9. グループ発表																			
【学習の方法】 ・受講のあり方 積極的に講義に参加し、主体的に討議する。 ・予習のあり方 紹介された参考文献を読んでおく。 ・復習のあり方 発表に向けて、その日の講義内容を整理しまとめる。																			
【成績評価の方法】 ・成績評価基準 発表(学生)に対して：1)わかり易いか 2)発表方法が適切か 3)調査が十分されているか レポート(教員)に対して：1)基礎的に理解されているか 2)論理的に記述がなされているか 3)自らの意見が明確に述べられているか ・方法 各4回のグループ発表を学生同士で発表させる(1回10点×4回=40点) レポート提出(400字×3枚以上=60点)																			
【テキスト】 特になし 必要に応じてプリント配布																			
【参考書】																			
【科目の位置付け】 一般教育科目																			
【その他】 ・学生へのメッセージ ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野																			

東 光 班

授業科目名 山形学 担当教員： 人文系・社会系・自然系 各1名 担当教員の所属： 人文系・社会系・自然系（各1名） 開講学年： 1年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態： 講義・演習 開講対象： 全学部 科目区分： 総合				
【授業概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 山形大学は山形にある総合大学である。人文・社会・自然の各領域から山形を総合的に理解するため「山形学」を設立した。 ・ねらい 学問的方法を学びつつ、山形について知る。 ・目 標 (1) 山形について多面的に語れるようにする。(認知) (2) それぞれの分野での調査方法の基礎を身につける。(技能) (3) プレゼンテーション能力の向上。(技能) (4) 山形に対する愛着を持つ。(態度) ・キーワード 山形・地域・自然・社会・文化 				
【授業計画】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の方法 講義（「山形学」概論，人文・社会・自然の各分野に関する方法論）：1～4回 チーム別の学習（講義とフィールドワークによる総合学習）：5～11回 プレゼンテーション（各分野に関する調査内容をチーム別にまとめ，発表）：12～14回 総合討論：15回 ・日 程 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 1. 「山形学」概論 2. 人文概論（文献研究 etc.） 3. 社会概論（調査方法 etc.） 4. 自然概論（準備，実験，実習 etc.） 5～11. チーム編成 [チームA = 人文] ・出羽三山文化 ・米沢文化 ・草木塔 ・山寺 （解説＋見学） </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> [チームB = 社会] ・酒田・鶴岡を中心とした文化 ・超高齢化社会 ・経済 ・福祉 （解説＋見学） </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> [チームC = 自然] ・山形の山・川 ・地形図・航空写真，その他資料の提示，読解法 + 現地での実習 </td> </tr> </table> 12～14. 各分野別の発表 15. 総括 		1. 「山形学」概論 2. 人文概論（文献研究 etc.） 3. 社会概論（調査方法 etc.） 4. 自然概論（準備，実験，実習 etc.） 5～11. チーム編成 [チームA = 人文] ・出羽三山文化 ・米沢文化 ・草木塔 ・山寺 （解説＋見学）	[チームB = 社会] ・酒田・鶴岡を中心とした文化 ・超高齢化社会 ・経済 ・福祉 （解説＋見学）	[チームC = 自然] ・山形の山・川 ・地形図・航空写真，その他資料の提示，読解法 + 現地での実習
1. 「山形学」概論 2. 人文概論（文献研究 etc.） 3. 社会概論（調査方法 etc.） 4. 自然概論（準備，実験，実習 etc.） 5～11. チーム編成 [チームA = 人文] ・出羽三山文化 ・米沢文化 ・草木塔 ・山寺 （解説＋見学）	[チームB = 社会] ・酒田・鶴岡を中心とした文化 ・超高齢化社会 ・経済 ・福祉 （解説＋見学）	[チームC = 自然] ・山形の山・川 ・地形図・航空写真，その他資料の提示，読解法 + 現地での実習		
【学習の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・受講のあり方 受講生は人文・社会・自然のいずれかを選択し，講義・フィールドワーク・プレゼンテーションによって進める。 ・予習のあり方 特に必要なし。 ・復習のあり方 資料をくり返しよく読んでおくこと。 				
【成績評価の方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準 学問的調査方法が身についているか。プレゼンテーションの技術と内容。 ・方 法 グループによるプレゼンテーション（50％） 個人のレポート（50％） 				
【テキスト】				
【参考書】 『山形要覧』				
【科目の位置付け】				
【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・学生へのメッセージ ・履修に当たっての留意点 グループ作業を行うので積極的に参加することが望ましい。 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野 人文系，社会系，自然系 				

ドッコ沼班

授業科目名 山形の今と未来 - 地域社会の諸問題を考える

担当教員：

担当教員の所属：

開講学年： 年 開講学期： 期 単位数： 2単位 開講形態： 講義・実習

開講対象： 全学部 科目区分：

【授業概要】

- ・テーマ 21世紀の諸課題を地域社会に密着した“食・資源”“医療・福祉”“エネルギー・リサイクル”の3つのテーマから考える。
- ・ねらい 1. 21世紀の課題として地域環境を取り上げ、特に資源と環境についての具体的問題を発見する。
2. 実地に調査することによって、自らの問題として実感し、解決方法を探る。
- ・目標 1. 地域の問題についての情報をまとめ、わかりやすく表現する。
2. 調査結果に基づいて、問題解決の方法を提言する。
- ・キーワード 食、資源、医療、福祉、エネルギー、リサイクル

【授業計画】

- ・授業の方法 テーマに関する講義をもとに具体的な課題を設定し、フィールドワークを行い、その結果を発表する。
- ・日程

<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義「食・資源」 2. " "「医療・福祉」 3. " "「エネルギー・リサイクル」 4. オリエンテーション フィールドワークの説明,グループ別 5. テーマの設定 	<ol style="list-style-type: none"> 6～8. フィールドワーク 9. 中間報告(質問票提出) 10. フィールドワーク 11. " " 12～14. プレゼンテーション 15. 総括
--	--

【学習の方法】

- ・受講のあり方 受講者にはテーマの設定から調査・報告まで自主的な取り組みが望まれる。
- ・予習のあり方 講義で示された参考書を積極的に読むこと。
- ・復習のあり方 授業外にもグループで話し合いの機会をもつこと。

【成績評価の方法】

- ・成績評価基準
 1. プレゼンテーションがわかりやすいかどうか。
 2. 問題解決の方法が妥当かどうか。
 3. 他のグループの内容を理解し、地域の問題を捉えられるかどうか。
- ・方法

プレゼンテーション(70点)

期末レポート(30点)

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

リンリ班

授業科目名 現代社会の倫理

担当教員： 心理，社会科学，動物行動学，生態学等の教員

担当教員の所属：

開講学年： 1年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態：

開講対象： 全学部 科目区分：

【授業概要】

- ・テーマ 情報，環境，人間に関わる倫理問題をとりあげ掘り下げる。
- ・ねらい 現代社会で生じている倫理の諸問題を洗い出す。
- ・目標 講義を聞き，情報を集め，研究成果をレポートにまとめ，発表し，教員と学生が共に相互評価する。
- ・キーワード 情報，環境，人間，生態系，論理的思考，想像力

【授業計画】

- ・授業の方法 講義・演習
- ・日程

1. ガイダンス（授業目標，到達目標の説明） 2～6. <ul style="list-style-type: none"> ・情報にかかわる倫理的問題 問題提起 既成学問分野の知見の応用 提起された問題につきディベート ディベートで出された質問・意見を ふまえてレポート作成 その発表，相互評価 	11～14. <ul style="list-style-type: none"> ・人間にかかわる倫理的問題 問題提起 関連諸分野の研究者のパネルディスカッション パネラー，学生をまじえての全員での討論 レポート作成への導機づけ
7～10. <ul style="list-style-type: none"> ・環境にかかわる倫理的問題 問題提起 関連諸分野の研究者のパネルディスカッション パネラー，学生をまじえての全員での討論 レポート作成への導機づけ 	15. 環境または人間にかかわる問題のいずれかについてのレポート発表，相互評価

【学習の方法】

- ・受講のあり方 講義で提起される問題をよく把握し，それにもとづいてシミュレーションや調査を行い，成果をレポートにまとめることが求められる。

【成績評価の方法】

- ・成績評価基準 情報，環境，人間のかかえる問題について，倫理の問題としていかに掘り下げることができたかを評価する。
- ・方法 2度のレポートに対する，教員と学生の相互評価。

【テキスト】

なし

【参考書】

レイチェル・カーソン『沈黙の春』などの環境破壊をテーマとした文献。

【科目の位置付け参考書】

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

はえぬき班

授業科目名 山形のしごと (Industries in Yamagata)

担当教員： 山口，瀬尾，中村，廣瀬

担当教員の所属： 山形大学，宇都宮大学 馮，太田

開講学年： 1年 開講学期： 前期 単位数： 2単位 開講形態： 講義・実習

開講対象： 全学部 科目区分： 総合

【授業概要】

- ・テーマ 山形の地場産業
- ・ねらい 地場産業のなりたちと地域性との関係を理解する。
職業意識と労働意欲を高め，ライフプランニングを創造する。
- ・目標（到達目標）
地場産業の知識を得る。
立地条件を理解する。
インタビューとプレゼンテーションの能力を身に付ける。
調査企画書を作る能力を身につける。
- ・キーワード 山形，地場産業，職業意識，労働意欲，立地条件

【授業計画】

- ・授業の方法 最初の授業で流れを説明し，調査方法，企画の方法を講義で学ぶ。
企画についてプレゼンテーションを行い，討議し，その結果を基に調査を実施する。
調査結果を報告する。
- ・日程

1.	オリエンテーション	8～9. ヒアリング
2.	調査方法の習得	10. 中間報告
3.	施設見学	11～12. ヒアリング
4.	山形の自然産業構造	13～14. 最終報告
5.	調査企画の作成	
6～7.	調査企画のプレゼンテーションと討議	

【学習の方法】

- ・受講のあり方 調査プロジェクトを完遂するための技能を積極的に修得すること。
- ・予習のあり方 インターネットと図書館の利用に慣れておくこと。
- ・復習のあり方 収集した情報を毎回整理分類しておくこと。

【成績評価の方法】

- ・成績評価基準
 - ・地場産業の理解に基づいた調査計画が作成できたか。
 - ・立地条件を分析できたか。
 - ・インタビューによって十分な情報が収集できたか。
 - ・方法
 - ・受講生に分かりやすいプレゼンテーションができたか。
- 調査企画書 50点 最終報告会 50点（外部専門家の評価点を含む）

【テキスト】

独自資料を配布する。

【参考書】

無し

【科目の位置付け】

選択科目（総合）

【その他】

- ・学生へのメッセージ 本講義を通じて卒業後の人生像を想像してほしい。
- ・履修に当たっての留意点 調査にあたって交通費は自己負担になる。
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

まご班

授業科目名 山形と自分の発見 (Discovering Yamagata and myself)

担当教員: 学長

担当教員の所属: 山形大学

開講学年: 1年 開講学期: 通年 単位数: 2単位 開講形態: 講義・実習

開講対象: 全学 科目区分: 総合

【授業概要】

- ・テーマ 山形と山形大学の個性, 特徴を明確にする。
- ・ねらい 自分が山形大学の学生であることの意味を具体的に認識する。
- ・目標 他者と共同して作業できるようになり, 他者に対して山形と山形大学のことを説明できるようになる。
- ・キーワード 山形, 山形大学, 自分, 個性

【授業計画】

- ・授業の方法 講義・実習(フィールドワーク, インタビュー)
プレゼンテーションによる
- ・日程

<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 班編成 2. 山形の地理風土, ディスカッション 3. 山形の自然, ディスカッション 4. 山形の歴史, ディスカッション 5. 山形の文化, ディスカッション 6. 山形の産業, ディスカッション 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 山形大学について 8~9. グループ討議 10~13. 実習(フィールドワーク) 14~15. プレゼンテーション
--	---

【学習の方法】

- ・受講のあり方 提示されたテーマを知識として学びフィールドワークを通じ実体験し, ディスカッションにおいて自分の考えをもって臨む。
- ・予習のあり方 文献, インターネットでの調査とグループ毎の討議による。
- ・復習のあり方 解釈できなかった問題について。
自分たちのフィールドワークのテーマによる。

【成績評価の方法】

- ・成績評価基準 講義の理解度はペーパーテストによる。
ディスカッションによる記録, 各自のレポートの提出。
フィールドワークでのプレゼンテーション。
- ・方法

ペーパーテスト	10%	講義でのレポート	10%	プレゼンテーション	10%
最後のレポート「自分の only one とは？」			70%		

【テキスト】

授業毎の関係資料

【参考書】

フィールドワーク関係の参考書

【科目の位置付け】

【その他】

- ・学生へのメッセージ 君の only one を探そう!!
- ・履修に当たっての留意点 フィールドワークに興味・意欲を持つ
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

全体会記録

総合司会 廣瀬 文彦
記録者 中村 勝

テーマ：『シラバスの完成』

心機一転班 「川の文化 - 最上川」

- ・講義で基礎の理解を深める
- ・発表4回ある。 - 発表に備え準備する
- ・積極的に参加する

評価：基礎的理解度

自分の考え方の転回，論理性

基準：分り易いか，調査は十分か

6（教員）対4（学生）で評価を行う

東光班 「山形学」

- ・3人の教員による講義・演習（全学部，総合，前期）
- ・山形を理解すること（多面的） - 自然，地域，文化 etc
- ・調査方法の修得，プレゼンテーション skill
- ・復習に重点を置く

評価：調査 skill 発表 skill

グループ評価（50%） 個人評価（50%）

ドッコ沼班 「山形の今と未来 - 地域社会の諸問題を考える」

- ・3つのテーマから問題解決の方法を探る
- ・フィールドワークに重点を置き，中間発表で他領域からの質問等を受ける

評価：問題解決の方法が適正か（3教員による）

レポート内容

リンリ班 「現代社会の倫理」

- ・講義・演習
- ・情報，環境，人の見地から
- ・論理的思考，創造性

評価：〔 形成的評価 - ミニレポート（各人が15回を通し）
総合評価 - レポート2つ（情報，環境 or 人）

基準：レポート内容 発表 skill

- ・主観的，客観的評価をまじえる

はえぬき班 「山形のしごと」

- ・地場産業を理解しながら職業意識・労働意欲を形成する
- ・現地調査を通しライフプランニングを創造する
- ・プロジェクトを完遂するための技能の修得

評価：地場産業の理解，分析能力

インタビューによって情報収集できるか
外部専門家からの評価も含める

まご班 「山形と自分の発見」 1年 2単位

- ・講義と演習 全学開講（総合）
- ・山形，山形大学，自分，個性がキーワード
- ・プレゼンテーションを行う
- ・自分の考え方をもちて臨む

評価： { ペーパーテスト（講義による知識）
記録
レポート
発表技術

フィールド

キミのオンリーワンを探そう

フィールドワークに興味を持とう！！

全体討議：

Q：東光に出てきた「調査能力を評価する」はどう評価するのか？

（結果と方法は分けにくいですが、領域ごとに経験させることが重要と考える）

Q：フィールドワークが多かったが、小白川で授業を行う場合、遠方まで行けるか？

実際には困難ではないか？学生の集中力はどうか？

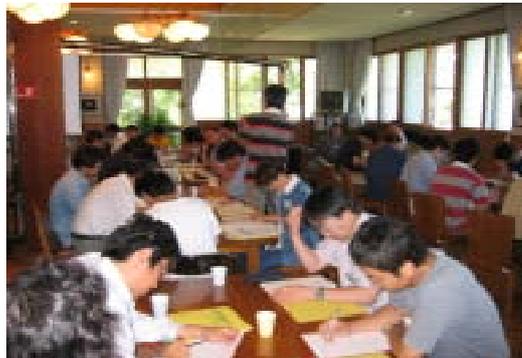
学生をどうひきつけられるか？工夫は？

ドッコ沼(A)：90分でまとめさせるのは不可能。週末など使って行うことを念頭に -

まご(A)：今回のプログラムの流れの中での問題であり、初めに前提を示してほしい

Q：プレゼンテーション方法の指導にも時間がかかるが、発表 skill まで評価の対象にするのはどうか？

はえぬき(A)：学生が質問を理解し他者に分り易く説明できるかどうか、応答能力は大切



各プログラムの記録【第2チーム】

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

グループ作業記録

さくらんぼ班

司会者 小沢 互
記録者 藤澤 秀光
発表者 木ノ内 誠

1. 東北地域を生かす教育研究
全国へ発信
2. 人材育成
・中堅的人材・技術者
・人格形成（オトナを社会に出してほしい）
3. 地域への公開貢献
(例)教育ボランティア
公開授業の長所・短所

地蔵班

司会者 松尾 剛次
記録者 コーインス 久美子
発表者 松尾 剛次

社会が求める山形大学
地域性，地域密着型
国際的に通用する研究
強い個性
魅力のある人材
地域に根ざした研究

↓ ↓
地域に貢献できる人材の養成

学生のニーズ
県内出身者にとって山形大学の意義は大きい
経済的理由
センター試験の結果...
地域の特殊性 農学部 米どころ 果樹王国
独自，地域の魅力あり

山形大学の置かれている状況
学生のレベル低下 学生定員が多すぎる 教育方法の再考
学生が消極的 刺激が少ない

(山形県内)他大学との交流促進 教員の尽力

おわり班

司会者 香田 智則
 記録者 戸部 真澄
 発表者 三上 喜孝

1. 山形大学には何が求められているか？

- 前提として：何故“山形大学”について考えなければならないのか？
 山大なくして我々なし（香田）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◦ トータルとしての山大か、学部単位か？ ◦ 問いの焦点がはっきりしない ◦ 大学をとりまく状況はコントンとしている ◦ テーマ毎回同じってどうよ | にセミナーの意味はない（市古）
問いが愚問
<u>を前提にして</u> |
|--|---|

社会 ...地域の教育機関として
 （寺子屋）
 ...外部とのコミュニケーション
 ...リテラシーを身につけられる場
 少人数教育

学生 ...就職に役立つ
 ...専門教育をしてほしい
 ...社会人としての基礎スキル
 （プレゼン，レポート）

2. 課題 { ・「何が求められているか」がわからない ・方向性がはっきりしない

長所...総合大学，学部間交流
 ...長い目で見た深い教育効果!!

短所...専門性が社会に開かれていない
 ...予算が少ない
 ...大講義形式
 ...何が研究されているかよくわからない
 ...教育の目的があいまい
 ...教員と学生の世代間ギャップ
 ...学生間のレベル較差

3. 問題点：FD成果のつみあげをしろ！FDは無意味!! 予算制約

こっぺ班

司会者 都田 昌之
記録者 佐藤 幸子
発表者 砂田 洋志

1 山形大学には何が求められているか？

地域貢献（範囲：山形県，東北圏内）

- 1) 経済的發展に寄与（地場産業，企業おこし，下宿代）
- 2) 文化的發展に寄与（教員養成）
- 3) 社会的發展に寄与（シンクタンクの）

学生のニーズ

- 1) 論理的思考力，汎用性のあるスキル
- 2) 領域特有のスキル

2 山形大学の置かれている状況分析

長所としてニーズがある（ex 講師依頼，特別プロジェクトへの参加）

短所として大学がそのニーズに応えきれしていない

（教員が忙しくなっている ex 成績管理など）

学科改組で流動的になっており，就職先も変化している

大学院までいかないと専門的なことまでできない

総合大学であるが，縦わりになっている。潜在能力はあるのではないか

社会的・文化的ニーズに対する受入れの窓口，システムが整備されていない

（特定の教員に負担 - 業績として評価）

3 現実的な制約・問題点，改革の必要性

システムの改革が必要

制約は？

問題点 予算上の問題，資金力

学生に対してはニーズの多様化



自立性の育成，機会の保証



良い班

司会者 田中 敦
 記録者 降旗 英央
 発表者 上山真知子

1 山形大学に何が求められているか?

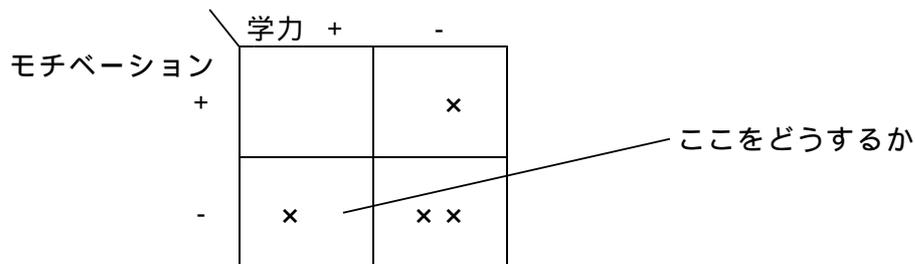
- ・社会ニーズ 専門性・一般性, 「社会人への対応」
- ・学生ニーズ

2 山形大学の置かれている状況分析

- ・「コンプレックス」(高校側の進路指導の影響)
- ・課題: 学力低下, 社会人の受け入れ 工学部(Bコース)
- ・短所: 元気がない ライセンスを取りたい。将来役に立ちたいという明確なモチベーションと意欲を持っている
- ・長所: まじめ (工学部 山形サテライトキャンパス(土・日))

3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- 学力低下 底上げの方策
- ・基礎ゼミ(人文)
 - ・チューター制, アドバイザー等のバック・アップ制度



全体会記録

総合司会 丹野 憲昭
記録者 藤澤 秀光

1 山形大学に何が求められるか？

[社会から大学へのニーズ]

- ・ 開放（地域向け，全国向け）
公開講座（高校生以下向け
社会人向け）

リカレント

- 寺子屋方式
- デパート方向
- スーパーマーケット方式
- 地域の受験生と勉学希望者の受け入れ

[学生からのニーズ]

- ・ 知識，能力，就職，実務能力

2 山形大学の置かれている状況

- 学生のコンプレックス
- 幅広い背景をもつ学生に対して，質の高い教育をアレンジするためにはどうしたらいいのか
- 法人化して制度上は自由度が増したが，いかに予算上の裏づけを確保するのか



プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

グループ作業記録

さくらんぼ班

司会者 安原 薫
記録者 小川 雅子
発表者 吉田 欽

1 山形大学の理念・目標

- ・地元で求められている地域貢献できる人材の養成

2 方略

- ・新学科の設置又は大学院の専攻コースの設置
県で強く要望されている建築・土木学科の設置
(利雪環境学)

3 実行計画

- ・工学部を中心に各学部の知見を総合的に生かして、雪対策を中心にした独自性のあるカリキュラムを作る

4 評価

- ・学生の建築・土木関係分野の就職



地 蔵 班

司会者 松尾 剛次
記録者 コ-インス 久美子
発表者 松尾 剛次

山形大学の理念・目標

“ デパート型大学からスーパー型大学へ ”
(旧帝大)
世界を意識しつつ、地域に密着
遠隔授業
少人数ゼミ

実行計画

オープンキャンパス 7・8・10月 回数を増やす

推薦入試
編入学
一般入試
センター試験

学生に進路変更の機会を柔軟に与える(他学部への移動)

就職については全学で連携

全般的に学部間の壁を取り除く

「目玉」授業を決定する組織を作る 強い権限を委譲する
(委員会)

仮称「新しい山形大学を作る委員会」
学生委員会

評価

ウェブサイトで公表
双方向性



おわり班

司会者 市古 喬男
記録者 速水 敏彦
発表者 河野 芳春

1 目標・理念

- 現在成り立ちうるのかという問題もある
- 学生のレベル - 学力は枠外において不足 まじめ，やさしく，人間性
- 専門心力でなく 共通テストの評価でなく
- A O入試 - 偏差値 - 教える方が意識過剰
- 芸大 - 芸術的才能だけではいって来る
- 教員，学生，親によってどういう学生をとりたいかは違う
- ・ 山大生は意欲・底力が多い（一定の学力レベルもあるが）
- まず入試で学力だけで切るのではなく別の方式（ex A O）でとる
- その後教育によって理想的な人物をつくる
- ・ 寺子屋方式
- 専門学校と異なる味をつける
- 学生の個性にあわせたオーダーメイド方式（オーダーメイドのカリキュラム）
- メニューをいっしょに考えてやる
- 初年度教育を丁寧におこなう
- 標準方式から多くの選択肢へ

2 方略

- ・ オーダーメイドするための半年間のガイダンス リソースの問題が大きい
カウンセリング
- ・ 能力別学習の必要性
- ・ 単位性をどう思うか - シラバスをしっかりと読んで自分に合ったものをとっているか
授業は多くとっているが自分理解できてない人が多い 制限をする

3 実行計画

- 教員と事務の共同，学生に授業に積極的に参加させる
- 外部評価 早期にマンツーマンの教育をする

4 評価

- 評価の新しい方式が必要

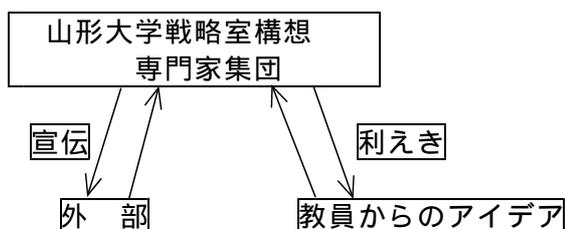
こっぺ班

司会者 山本 隆夫
 記録者 水上 修
 発表者 石崎 貴士

山形大学の理念・目標

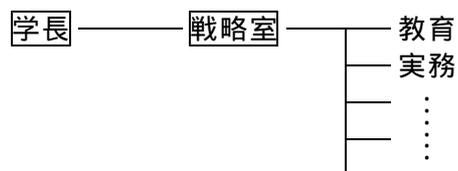
- ・教養を重んじる，地味だが基礎を大切にしている
 - ・地域に根ざし世界に生かす
 - ・学部間の連携を生かす
- 全学あげて学部間連携を生かし，地域から世界への貢献

12名位



学部間のかきねを飛びこえた
 将来計画についての組織作り
 学部から独立している
 学内の人間でなくても良い
 別会社でも良い

教育（学生）組織と研究組織は切りはなす
 組みかえがしやすくなる



- ・戦略室は評価され，退陣する場合ももちろんある
 （学生・教員・OBなどから評価される）
- ・成功した事による利えきの分配は大リーグ方式（担当教員だけでなく分配する）とする



良 い 班

司会者 西平 直史
記録者 浅尾 裕信
発表者 田中 敦

1 理念・目標

学生が行動する能動的な大学へ，夢を持てる大学へ
キャッチフレーズ：自分達で夢を作ろう

2 方略

学生へのきめ細かな対応
学生チューター制，R A ， T A の活用
学生カウンセリングの充実
アドバイザー：精通している事務官によるカウンセリング
出来る学生へのさらなる step up が出来る様なプログラム
Double major 制が可能な大学
その他多様な教育プログラムが可能な大学
大学のイメージ作り
著名な客員教授の雇用
ただし，タレント性だけの客寄せパンダでは学生が失望するだろう

3 計画

Administration office の設置
プロによる戦略が必要

4 評価 - 測定方法，学生，教員 -

卒業性の評価として寄付金の額は1つのパラメータだろう



全体会記録

総合司会 末廣 晃二
記録者 堀口 健一

1 山形大学の理念・目標

- ・世界的ス - パー型大学
- ・寺子屋
- ・夢を作る
- ・地元が求める人材

日本だけでなくアジア（海外）へ
大学からの情報を
（山形大）
山形大としての特色ある理念・目標が重要

2 方略

- ・山形大学戦略室
- ・新しい大学を考える委員会

組織の整理が必要だ
ムダをなくす

3 実行計画

- ・タレント

専門的事務
プロ集団をつくる
全体のバランスを考えて実行
様々な分野の話が聞けるような対応が必要



プログラム 「科目設計1:授業名と目標の設定」

グループ作業記録

黄色いサクランボ班

司会者	田中	敦
記録者	丹野	憲昭
発表者	香田	智則

山形大学の個性を発揮する授業

個性は育てればよい

じっくり考えるが形にならない：努力はする
リーダーが居ない

リーダーシップを育てる ~アガスケ~

文句を言わない，出ばらない，いいように使われる
もんく？

山形の学生の気質
→ 評価されない

世界のリーダーシップ トホホ~~~失敗伝~~~
偉人伝に書いていない偉人伝

(目標)
グループ学習
コンプレックスをこわす

ネアカ
根明な人 (講義)

リーダーシップ論 これを知っていてサバイバルで損ではない

心理学的な方法

リーダーシップを作る(目標)

社会の仕組みをしっかりと教える

社会の厳しさを教える

(目標)

講義

リーダーになるか？リーダーとどうかかわるかを修得する

リーダーになる可能性

リーダーシップ論

主役は君だ！

~リーダーへの道~

授業名

樹氷班

司会者 小沢 互
 記録者 戸部 真澄
 発表者 小沢 互

授業名 “山形フィールド学”へのいざない

目標 学習者が「フィールドワークと報告」を通して、テーマ設定やローデータの処理、インタビューの仕方、報告の仕方を身につけ“総合的な問題解決能力”を養うことを目標とする。これは同時に学習者が

- ・地域のニーズを発掘（地域産業）し、
- ・社会でのふるまい方（アポのとり方 etc）をも身につけることを目標とする
- ・地域特性の理解

やり方 教員によるメニュー提示 予備調査 行かせる 報告
 （+ねまわし）
 ネットで調べる（検索の仕方を覚える）
 オムニバス（複数教員）方式

どうでしょう班

司会者 末廣 晃二
 記録者 亀ヶ谷雅彦
 発表者 浅尾 裕信

21世紀の諸課題

・中国と世界 企業工業，環境，政治
 ・戦争 戦争体験 グループ調査，平和学
 レクチャー 民俗学，社会学
 総論 方法論 きき書き 報告書
 スキル

「戦争」 きき書き他 多角なアプローチ

継続性

学習目標

学生中心に考えるとききとり
 身近な史実の掘りおこし - 県によって戦争とのかかわりちがう
 キーワードとスキルを提示 組みあわせを学生にえらばせる

・文献調査 ・ききかき ・つめあと
 ・山形 {
 ・満州開拓団
 ・石原莞爾，大川はな
 ・軍人多い

現代に

「宗教」「テロリズム」「憲法」
 最後に学生，教師あつまってシンポ

オムニバス形式
 学生あつまる

「21世紀と戦争」

{ 2~3人 } レクチャ → 学生に フィールドワーク 報告書
 調べさせる { } → ディスカッション
 理：ガス・地学・環境 人：宗教・国際 社：民俗学・社会学
 (フィールドワーク)

小川班

司会者 小川 雅子
記録者 堀口 健一
発表者 水上 修

授業のアイデアとして
倫理性・公共性を問う形での授業展開
教育面などの具体的

学生の体験を通じたものを取り上げて

経済、情報

導入
倫理性、公共性とは

現状として

授業は高校等で行っているが、知識の詰め込みだけでは

自らの体験から学ぶ
倫理性と公共性

(授業名)

学習目標

- ・倫理性・公共性の概念
具体例を提示しながら説明する
- ・様々な分野での問題を考える
 - 学生の体験を通じて実態を見極めめる
 - 教員からの問題提示
(専門的分野からの提示)

地下鉄等での
若者のふるまい

学生の問題意識

到達目標

- ・身近なところから、問題を見つけ出すことができる
- ・他人のことを考えることができる

ばんご班

司会者 森田 博昭
記録者 河野 芳春
発表者 西平 直史

「職業意識と労働意欲を培う授業」

どのような職業があり、どのような人が働いているか把握
就業者にアポイントをとり話を聞く
学生にOB名簿からインタビューを促す
現場に足を運び、就業者の生の声を聞く

授業目標：職業意識を高め、労働意欲を獲得

到達目標：どのような職業があるか知る
どのように働いているかを知る

授業名：「職場探訪」(仮題)

- ・調査
- ・アポ
- ・講演

全体会記録

総合司会 白杉 悦雄
 記録者 亀ヶ谷雅彦

小川班：倫理・公共性

「自からの体験から学ぶ倫理と公共性」

< 導入は教員 >

- ・ 経済
 - ・ コンピュータ etc
- ↗ 自らの体験
 ↘ 教員からの問題提起
 (二本立て)

学生の生活・経済
 フィールドスタディ
 学生が課題を立てる

ばんご班：職場意識と労働意欲

「職場探訪」

目標 職業意識と労働意欲を獲得する

学生がどんな仕事があるか調査 働く人にアポ取り，講演の依頼を学生にさせる

到達目標 どのような職があるか，どのように働いてるか，どのようにして就職したか

黄色いサクランボ班：山大の個性を発揮する

リーダーシップを育てる - 個性は育てればよい

cf. アガスケにならない方がよい 山形の学生の対質

↑ (でしゃばり文句を言う)

- | | |
|--|------------------------------|
| 目標・学生のコンプレックスをこわす
・ 社会の厳しさをおしえる
・ リーダーになる可能性 | グループ授業，プレゼン
失敗伝に基づく偉人伝の講義 |
|--|------------------------------|

授業名「主役は君だ！～リーダーへの道」

樹氷班：地域性に関連する授業

「山形フィールド学へのいざない」

目標：フィールドワークと報告を通して問題解決能力を養い，地域ニーズを発掘する

- ・ 地域課題を学生がさがして，アポ取り，調べてプレゼンする
- ・ スタートの体吸的なものとして行う
- ・ 15回でつくるか，教員がどうかかわるのかを議論

どうでしょう班：21世紀の諸課題に対応

「21世紀と戦争」

目標：レクチャーと学生が主体となるグループ学習の組み合わせ
 テーマとスキルの提供

- テーマ：宗教，テロ，環境，生物化学兵器，憲法，山形
オムニバスで講義
- スキル：文献，きき取り，ビデオ，写真

最後に講師 + 学生でシンポジウム

目標：宗教と戦争がこれまでいかに関わってきたのかを理解し，21世紀において宗教が関わる戦争をどのようにみていくのかを考える

<全体討論>

- ・ 樹氷班に：「発掘 / 提案」どこをゴールにするか？
まずは発掘するところから
アポ取りなど課程の能力を重視
イメージをもたせる
- ・ ばんご班に：「13才のためのハローワーク」を教科書にしたら
工学部ではつかっている
- ・ どうでしょう班に：なぜ「戦争」を21世紀の課題に？
他領域をカバーできる
時事問題を取りあげる 学生の興味
具体的テーマ
「戦争」を正面にすえた授業少ないのでは
- ・ 労働意欲をわかせるのは体験なのでは？
- ・ ばんご班：職業意識とは？労働意欲とは？
フリーター
この問題設定がおかしい } 口論となる
90分15回ではできない

〔キャリア教育のしかた考える
勉学意欲がないことを考えるためとして
できるのは



プログラム 「科目設計2:授業内容の作成」

グループ作業記録

黄色いサクランボ班

司会者
記録者
発表者

授業名 「主役は君だ！～リーダーへの道～」

日程

ガイダンス	1回
現代人とコンプレックス	} 1回
ドライビングフォースとしてのコンプレックス	
トホホ偉人伝	1回
グループ学習～トホホ偉人伝の調査 進行状況報告(中間報告)	2回
グループ発表	2回
総括(リーダーシップ論へつなぐ)・相互評価	1回 ←
1回	1回

ヒエラルキーとリーダーシップ
(社会の仕組み)社会構造と個人の力 1回

シンプルな問題解決(協同作業)
LEGO 1回

結果の解析・評価 1回(12回目)

実際の組織(日本・アメリカ・政党) 1回

組織案と自分の位置の確認 1回

総括???

樹氷班

司会者 都田 昌之
記録者 山本 隆夫
発表者 杉原 有紀

授業方法

全体 30名 5名1チームでおこなう

担当教員 6名（各学部1名ぐらい他大学会社等にも協力をお願いします）

シラバスで担当教員の指導可能領域を示す

- | | | |
|-------|-------------------------------|------|
| 1回 | オリエンテーションとグループ分け | } 講義 |
| 2 | 原案作りとリサーチ方法のフォロー | |
| 3 | プレゼンテーションによる2の確認 | |
| 4～6 | 調査 | |
| 7～9 | 中間発表（各チームのプレゼンテーション） | |
| 10～12 | 2度目の発表（調査先とのすりあわせとプレゼンテーション） | |
| 13～14 | 総合討論 | |
| 15 | 報告書の作成とお礼
やりたかったテーマについての設定 | |

アポイントメントのとり方，会話の指導
情報収集先とのよい関係のもち方
他学部，他大学，会社等との交流

キーワード：山形，フィールドワーク
リサーチ，プレゼンテーション
コミュニケーション

どうでしょう班

司会者 安原 薫
記録者 三上 喜孝
発表者 三上 喜孝

テ ー マ 21世紀と戦争

ね ら い 21世紀の諸課題を学ぶことを通じて自分の専門につなげるものをみつけさせる

目 標 物事を多角的にとらえ取材し、相手に伝えることのできる力

学習方法 能動的学習法と受動的学習法の併用

前半(1/3)は講義，後半が実習，最後の3回あたりを全体討論
(このFD研修と同じ形式にする) キーワード

テロ，宗教，環境，フィールドワーク，聞書

何人かのコーディネーターをつくり，初回に学生に「21世紀の課題」について考えさせる。

学生の反応をふまえて3人の教員に話をさせる。

学生 50人 教員 5人

1 ガイダンス(学生への意識を確認)

2 講義

3 "

4 "

5 ~ 12 テーマとグループ分け 10人くらいのグループに分かれて

各グループに教員をはりつける(全5班)

グループごとに打ち合わせ，発表をくり返す

13 ~ 15 全体討論

受講のあり方...他の発表に対してコメントがつけられるようにできる

予習のあり方...新聞などで問題意識を高める

復習のあり方...他のコメントをふまえて議論を再構築できること

小川 班

司会者 堀口 健一
記録者 砂田 洋志
発表者 堀口 健一

自らの体験から学ぶ倫理性・公共性

自らの体験

〔アンケート
フィールドワーク〕 の2本柱

- 1 教員側からのレクチャー (1)オリエンテーション
- 2 学生の体験談 (2~8)
共通の経験をもつ人でグループ学習
フィールドスタディー
報告
- 3 学生からの報告に漏れた倫理性・公共性についてオムニバス形式でレクチャー
〔生命, 情報 (9~14)
歴史, 環境
社会(経済・政治...)〕
レクチャーの終了後, 学生の決意表明(15)

キーワード 体験型, 倫理性, 公共性

授業の方法 レクチャーとグループ学習の組合せ
(フィールドワークを含む)

ねらい 自らの体験を通して現実生活における公共性
倫理性について学ぶ, 幅広く学ぶために教員からの講義を受ける

目標 自分で問題を認識し, 対処できる

学習の方法

- 受講のあり方 - 学生が自発的に課題を見つけ, 討論などを通して考えを深める
- 予習のあり方 - 自分達のグループの設定した課題について様々な情報を収集分析する
- 復習のあり方 - 将来の成果をまとめて日本的な自分の倫理性や公共性に対する考えを深める

ばんご班

司会者 河野 芳春
記録者 佐藤 幸子
発表者 吉田 歆

授業の目標をもっと1年生に適したものにしていく必要があるのではないか。

職業選択ではなく、職業選択のスタート地点としての位置づけ

- 1 ガイダンス（グループワークのすすめ方，アポイントメントをとる先方の紹介）
- 2 グループ討議（自分たちが何を知りたいか）
- 3 データ収集（職場に関する情報）
- 4 データ収集&グループ討議
- 5 報告会（全体討議）
- 6 講演会1（教員の準備によるもの）
- 7 グループ討議
- 8 データ収集
- 9 データ収集
- 10 報告会
- 11 グループ討議
- 12 データ収集
- 13 データ収集
- 14 報告会
- 15 講演会2（学生の企画による）

3回のワークはそれぞれ違った職種とするなど，学生自ら計画する
調査はフィールドでも，学内でも可



全体会記録

総合司会 速水 敏彦
 記録者 水上 修

ばんご班

「ザ・仕事」 職業意識と労働意欲を培う

- | | | |
|----|-----------------|---|
| 1 | ガイダンス | } |
| 2 | グループ討議 - 計画作り | |
| 3 | 選んだことについて調査 | |
| 4 | ” | } |
| 5 | 報告会 | |
| 6 | 講演会 1 | } |
| 7 | 同上 | |
| 8 | | |
| 9 | | } |
| 10 | | |
| 11 | 同上 | } |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | | } |
| 15 | 講演会 2 (学生がチョイス) | |

黄色いサクランボ班

「主役は君だ～リーダーへの道～」

- | | | |
|-----------------------|---|----|
| 現代人とコンプレックス | } | 1回 |
| ドライビングフォースとしてのコンプレックス | | |
| トホホ偉人伝 | | 1回 |
| グループ学習～トホホ偉人伝の調査～ | | 2回 |
| 進行状況報告 | | |
| グループ発表 | } | 2回 |
| 総括 | | |

ヒエラルキーとリーダーシップ 1回

シンプルな問題解決 1回

結果の解析・評価 1回

実際の組織 1回

樹氷班

「山形フィールド学へのいざない」

授業計画

- | | |
|--------|------------------------|
| 1 | 概論, グループ分け |
| 2 | 原案作りとリサーチ方法のフォロー |
| 3 | プレゼンにより2の確認 |
| 4～6 | 調査 |
| 7～9 | 中間発表 |
| 10～12 | 2度目の発表(調査先とのすりあわせ) |
| 13, 14 | 総合討論 |
| 15 | 報告書の作成とお礼
次年度のテーマ設定 |

どうでしょう班

「21世紀と戦争」

- 1 ガイダンス
- 2 講義（1回目の学生の意識をふまえたもの）
- 3 〃
- 4 〃
- 5 テーマ設定とグループ分け（教員1人学生10人）
- 6～12 グループごとの打合せ，発表をくり返す（フィールドワークも有り）
- 13～15 全体討論

小川班

「自らの体験から学ぶ倫理性と公共性」

- 教員からの授業報告
- 学生からの意見，グループ分け，研究計画
- フィールドワーク，発見
- 複数教員から，専門的な視点から講義
- 学生の意志表明

Q and A

Q （おがわ班へ）どのようなフィールドワークか？

A 導入部分を参考に学生が自主的に行う

Q （全班へ）フィールドワークは1回，2回で本当に出来るのか？

（限られたコマ数の中で）

A 時間外にもはみ出す場合も出てくる

Q はみ出した場合，他の教員に迷惑がかかるのでは？

A 時間内での効果的などりくみも可能ではないか



プログラム 「科目設計3:シラバスの完成」

グループ作業記録

黄色いサクランボ班

司会者 石崎 貴士
 記録者 コエンス 久美子
 発表者 丹野 憲昭

ねらい { トホホ偉人伝, グループ学習
 ヒエラルキー (社会のしくみ) を認識

リーダーシップとリーダーと自分と位置関係, リーダーとの
 かかわり方を知る

目 標 自分の存在意義を知る。積極的な社会参加

授業方法 講義, グループ学習, 発表, 協同作業

評 価 中間報告 グループとしてうまく機能しているか (チームワーク) 20点
 発表 内容, プレゼンテーション能力 20点
 レポート 自分を客観的に見つめられたか 20点
 グループ発表に対する相互評価 20点
 自己評価 20点

受講のあり方 積極的に参加。グループに積極的にかかわる

教員 3名

教材 ビデオ活用

樹 氷 班

司会者 都田 昌之
 記録者 小沢 亙
 発表者 戸部 真澄

評価基準	評価
情報収集・整理	} 10 (中間発表まで)
フィールドワーク	
プレゼンテーション	
ディベート	
レポート { レポート作成 (調査内容) 30	} 60
プロジェクトマネジメント 30	

最終評価の考え方

全参加は最低 60点と評価する

6人の教員の評価のうち, 最高・最低を除いた4人分を平均する

どうでしょう班

司会者 大谷 博彌
 記録者 亀ヶ谷雅彦
 発表者

成績評価：リサーチとプレゼン
 (テーマのおもしろさ)
 内味
 みため(プレゼン能力)

経過報告 グループ単位
 (3回) 20%

(1回) まとめのレポート CD-R
 によく

デジタル
 ・文章
 ・プレゼン
 ・映像・画像

授業のルール約束

次後の教材につかえる
 - プレゼン 20%
 - 中味 20% 100%

学習中と学習終了後に評価する

・経過報告(グループごとに) 3回 = × 20%
 ・最終報告 { 中味のよさ 20%
 { プレゼンのよさ 20%

テキスト : 現場

参考書 佐藤郁哉 「フィールドワークの技法」新曜社 2002

位置付け, 総合的な

メッセージ 報告をきいたらコメントを書いて教員に提出する

報告書の形はもとめない

担当教員 人文・社会・自然系から

どんなフィールドワーク?

- ・お年寄りの戦争体験をききかき
- ・意向調査
- ・外国人 中国残留孤児のおよめさん
- ・モスク
- ・山大留学生 - ビデオとってドキュメンタリー

教養でフィールドワークのいいわけ

- ・コピペでできないものがあることを教える
- ・フィールドのたのしさ

1年 集中講義(後期だとできない)

小川班

司会者 市古 喬男
記録者 小川 雅子
発表者 市古 喬男

“ 自らの体験から学ぶ倫理性と公共性 ”

評価

倫理性，公共性の評価はできるのか？

方法的な評価はできる

- ・取材やインタビューの妥当性，客観性

グループ活動と個人評価

- ・個人評価は発表とレポートでみる
- ・グループ評価は討論の深まりをみる（観察）

生活意識や態度の変容につながるすじ道をどのようにみるか

各グループの問題意識と検証方法が可能なものになっているかどうか

プランニング能力の評価（提出物による）

取材，インタビュー，観察などの情報収集の妥当性，客観性（提出物による）

グループにおける話し合いの評価（観察）

6つの分野に対する講義終了後の「まとめ」の小レポートの評価

総合評価...到達目標に対する評価

基準：フィールドワークに関する計画の妥当性（観察，提出物 40点）

テーマ別講義の理解度（レポート 40点）

倫理性，公共性に対する自分なりの態度の変容（アンケート 20点）

ばんご班

司会者 吉田 勲
記録者 西平 直史
発表者 木ノ内 誠

報告会 @ 25点 × 3回

- ・学生による相互評価 10点
計画，データ収集，考察，プレゼンテーション
- ・教員による評価 15点
レポート

講演会 @ 10点（レポート）

要約と感想

講演会 @ 15点（レポート）

要約と感想

講義全体を通してどのような意識意欲が培われたか報告

黄色いサクランボ班

授業科目名 主役は君だ！～リーダーへの道～

担当教員： 3名

担当教員の所属：

開講学年： 年 開講学期： 期 単位数： 単位 開講形態：

開講対象： 科目区分：

【授業概要】

- ・ねらい
 - 〔トホホ偉人伝，グループ学習
ヒエラルキー（社会のしくみ）を認識
- ・目標
 - リーダーシップとリーダーと自分と位置関係，リーダーとの
かかわり方を知る。
 - 自分の存在意義を知る。積極的な社会参加。

【授業計画】

- ・授業の方法 講義，グループ学習，発表，協同作業
- ・日程

ガイダンス	1回
現代人とコンプレックス	} 1回
ドライビングフォースとしてのコンプレックス	
トホホ偉人伝	1回
グループ学習～トホホ偉人伝の調査 進行状況報告（中間報告）	2回
グループ発表	2回
総括（リーダーシップ論へつなぐ）相互評価	1回 ←
ヒエラルキーとリーダーシップ （社会の仕組）社会構造と個人の力	1回
シンプルな問題解決（協同作業） LEGO	1回
結果の解析・評価	1回（12回目）
実際の組織（日本・アメリカ・政党）	1回
組織案と自分の位置の確認	1回
総括???	

【学習の方法】

- ・受講のあり方 積極的に参加。グループに積極的にかかわる。

【成績評価の方法】

- ・評価

中間報告	グループとしてうまく機能しているか（チームワーク）	20点
発表	内容，プレゼンテーション能力	20点
レポート	自分を客観的に見つめられたか	20点
グループ発表	発表に対する相互評価	20点
自己評価		

【テキスト】

ビデオ活用

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

樹氷班

授業科目名 山形フィールド学へのいざない

担当教員： 6名

担当教員の所属： 各学部，他大学，会社

開講学年： 年 開講学期： 期 単位数： 単位 開講形態：

開講対象： 科目区分：

【授業概要】

- ・ねらい アポイントメントのとり方，会話の指導。
情報収集先とのよい関係のもち方。
他学部，他大学，会社等との交流。
- ・キーワード 山形，フィールドワーク，リサーチ，プレゼンテーション，コミュニケーション

【授業計画】

- ・授業の方法 全体30名 5名1チームでおこなう
- ・日程 担当教員の指導可能領域を示す
- 1回 オリエンテーションとグループ分け } 講義
- 2 原案作りとリサーチ方法のフォロー
- 3 プレゼンテーションによる2の確認
- 4～6 調査
- 7～9 中間発表（各チームのプレゼンテーション）
- 10～12 2度目の発表（調査先とのすりあわせとプレゼンテーション）
- 13～14 総合討論
- 15 報告書の作成とお礼
やりたかったテーマについての設定

【学習の方法】

【成績評価の方法】

- ・評価基準

情報収集・整理	}	10（中間発表まで）
フィールドワーク		
プレゼンテーション		
ディベート	}	20（2回報告）
レポート		
レポート作成（調査内容）	30	60
プロジェクトマネジメント	30	

- ・最終評価の考え方
全参加は最低60点と評価する
6人の教員の評価のうち，最高・最低を除いた4人分を平均する

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

どうでしょう班

<p>授業科目名 21世紀と戦争 担当教員： 5名 担当教員の所属： 開講学年： 1年 開講学期： 期 単位数： 単位 開講形態：集中講義(後期だと 開講対象： 科目区分： できない)</p>																			
<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらい 21世紀の諸課題を学ぶことを通じて自分の専門につなげるものを見つけさせる。 ・目標 物事を多角的にとらえ取材し、相手に伝えることのできる力。 ・キーワード テロ、宗教、環境、フィールドワーク、聞書 																			
<p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の方法 能動的学習法と受動的学習法の併用。 前半(1/3)は講義、後半が実習、最後の3回あたりを全体討論。 (このFD研修と同じ形式にする) 何人かのコーディネーターをつくり、初回に学生に「21世紀の課題」について考えさせる。 学生の反応をふまえて3人の教員に話をさせる。 学生50人 ・日程 <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス(学生への意識を確認)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>"</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>"</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5~12</td> <td>テーマとグループ分け</td> <td>10人くらいのグループに分かれて各グループに 教員をはりつける。(全5班) グループごとに打ち合わせ、発表をくり返す。</td> </tr> <tr> <td>13~15</td> <td>全体討論</td> <td></td> </tr> </table> 		1	ガイダンス(学生への意識を確認)		2	講義		3	"		4	"		5~12	テーマとグループ分け	10人くらいのグループに分かれて各グループに 教員をはりつける。(全5班) グループごとに打ち合わせ、発表をくり返す。	13~15	全体討論	
1	ガイダンス(学生への意識を確認)																		
2	講義																		
3	"																		
4	"																		
5~12	テーマとグループ分け	10人くらいのグループに分かれて各グループに 教員をはりつける。(全5班) グループごとに打ち合わせ、発表をくり返す。																	
13~15	全体討論																		
<p>【学習の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講のあり方 他の発表に対してコメントがつけられるようにできる。 ・予習のあり方 新聞などで問題意識を高める。 ・復習のあり方 他のコメントをふまえて議論を再構築できること。 																			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>リサーチとプレゼンテーション(デジタル化) 学習中と学習終了後に評価する</p> <table border="0"> <tr> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ・経過報告(グループごとに)3回 = × 20% ・最終報告 </td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> { 中味のよさ 20% { プレゼンテーションのよさ 20% </td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・経過報告(グループごとに)3回 = × 20% ・最終報告 	<ul style="list-style-type: none"> { 中味のよさ 20% { プレゼンテーションのよさ 20% 																
<ul style="list-style-type: none"> ・経過報告(グループごとに)3回 = × 20% ・最終報告 	<ul style="list-style-type: none"> { 中味のよさ 20% { プレゼンテーションのよさ 20% 																		
<p>【テキスト】</p> <p>現場</p>																			
<p>【参考書】</p> <p>佐藤郁哉 「フィールドワークの技法」新曜社 2002</p>																			
<p>【科目の位置付け】</p> <p>総合</p>																			
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生へのメッセージ 報告をきいたらコメントを書いて教員に提出する 報告書の形はもとめない ・履修に当たっての留意点 ・オフィス・アワー ・担当教員の専門分野 人文・社会・自然系 																			

小川班

授業科目名 自らの体験から学ぶ倫理性・公共性

担当教員： 複数名

担当教員の所属：

開講学年： 年 開講学期： 期 単位数： 単位 開講形態：

開講対象： 科目区分：

【授業概要】

- ・ねらい 自らの体験を通して現実生活における公共性。
倫理性について学ぶ、幅広く学ぶために教員からの講義を受ける。
- ・目標 自分で問題を認識し、対処できる。
- ・キーワード 体験型、倫理性、公共性

【授業計画】

- ・授業の方法 レクチャーとグループ学習の組合せ
自らの体験
アンケート
フィールドワーク の2本柱
- ・日程
 - 1 教員側からのレクチャー (1) オリエンテーション
 - 2 学生からの体験談 (2~8)
共通の経験をもつ人でグルーピング 学習
フィールドスタディー
報告
 - 3 学生からの報告に漏れた倫理性・公共性についてオムニバス形式でレクチャー
生命、情報 (9~14)
歴史、環境
社会 (経済・政治...)
レクチャーの終了後、学生の決意表明 (15)

【学習の方法】

- ・受講のあり方 学生が自発的に課題を見つけ、討論などを通して考えを深める。
- ・予習のあり方 自分達のグループの設定した課題について様々な情報を収集分析する。
- ・復習のあり方 将来の成果をまとめて日本的な自分の倫理性や公共性に対する考えを深める。

【成績評価の方法】

- ・成績評価基準
 - 倫理性、公共性の評価はできるのか？
 - 方法的な評価はできる。
 - 取材やインタビューの妥当性、客観性
 - グループ活動と個人評価。
 - 個人評価は発表とレポートでみる
 - グループ評価は討論の深まりをみる(観察)
 - 生活意識や態度の変容につながるすじ道をどのようにみるか。
- ・評価の方法
 - 各グループの問題意識と検証方法が可能なものになっているかどうか。
 - プランニング能力の評価 (提出物による)
 - 取材、インタビュー、観察などの情報収集の妥当性、客観性。(提出物による)
 - グループにおける話し合いの評価。(観察)
 - 6つの分野に対する講義終了後の「まとめ」の小レポートの評価。
 - 総合評価...到達目標に対する評価。
 - 基準：フィールドワークに関する計画の妥当性(観察、提出物 40点)
 - テーマ別講義の理解度(レポート 40点)
 - 倫理性、公共性に対する自分なりの態度の変容(アンケート 20点)

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

ばんご班

授業科目名 「ザ・仕事」職業意識と労働意識を培う

担当教員： 名

担当教員の所属：

開講学年： 年 開講学期： 期 単位数： 単位 開講形態：

開講対象： 科目区分：

【授業概要】

- ・ねらい 職業選択ではなく、職業選択のスタート地点としての位置付け。

【授業計画】

- ・授業の方法
 - ・3回のワークはそれぞれ違った職種とするなど、学生自ら計画する。
 - ・調査はフィールドでも、学内でも可。
- ・日程

1	ガイダンス（グループワークのすすめ方、アポイントメントをとる先方の紹介）	
2	グループ討議（自分たちが何を知りたいか）	
3	データ収集（職場に関する情報）	}
4	データ収集&グループ討議	
5	報告会（全体討議）	}
6	講演会1（教員の準備によるもの）	
7	グループ討議	}
8	データ収集	
9	データ収集	}
10	報告会	
11	グループ討議	}
12	データ収集	
13	データ収集	}
14	報告会	
15	講演会2（学生の企画による）	

【学習の方法】

【成績評価の方法】

- 報告会 @ 25点 × 3回
- ・学生による相互評価 10点
 - ・計画、データ収集、考察、プレゼンテーション
 - ・教員による評価 15点
- レポート
- 講演会 @ 10点（レポート）
- 要約と感想
- 講演会 @ 15点（レポート）
- 要約と感想
- 講義全体を通してどのような意識意欲が培われたか報告

【テキスト】

【参考書】

【科目の位置付け】

【その他】

- ・学生へのメッセージ
- ・履修に当たっての留意点
- ・オフィス・アワー
- ・担当教員の専門分野

全体会記録

総合司会 森田 博昭
記録者 佐藤 幸子

黄色いサクランボ班

テーマは「コンプレックスをいかにとりのぞくか」

キーワード リーダーシップ, ヒエラルキー, 偉人伝

- ・組織案と自分の位置の確認
- ・積極的態度を望む
- ・成績：グループの中間報告，レポート，グループの機能，グループ同志の相互評価

樹氷班

テーマは山形フィールドワーク学へのいざない

成績評価 ・データ収集できたか，実のあるデータ，プレゼン
ディベート能力，レポート，プロジェクトマネジメント
中間発表 10，第2回 20，討論 10，レポート 30 + 30
最低 60 点はあげる

どうでしょう班

テーマは 21 世紀と戦争

成績 経過報告（中間）20 × 3
全体発表（プレゼン内容）20，20
発表に際してコメントを書いてもらってフィードバック

位置づけ 人文，社会，自然をカバーする
フィールドワーク，中国残留孤児，留学生

小川班 Introduction

テーマは自らの体験で学ぶ倫理性と公共性

学習の方法 学生が自発的に課題を発見していく

成績評価 フィールドワークに関する計画の妥当性
テーマの理解度
倫理性・公共性に対する自分の態度の変化
観察，論文₄ / アンケート₄ / 自己評価₂

ばんご班

「ザ・仕事」

成績評価 報告会 講演会
報告会 25 点 × 3 回，講演会 10 点，講演会 15 点
・報告会 学生による相互 10 点，教員評価 15 点（レポート）
（計画，データ収集，考察，プレゼン）
・講演会 レポート，講演会，要約，意識の変化

Q and A

- ・樹氷班 Q 熱意の評価はどのようにするのか
A 教員 6 人でみる
授業の最初にアナウンスする（自分でアピールするように）
- Q 定性をどのように測るか
A 個々のレポートを出す，なぜそう思ったのか考察の評価
きいていることに対して常にコメントをもつ

A プロデュース企画の授業

ホワイトボードを学生がもつ。当日のテーマについて知っていることをホワイトボードに書いてもらい発表する。

2～3日後理解したことを発表してもらう。理解度を比較する。それがけっこうもりあがっている。

・黄色いサクランボ班 ・ばんご班

Q 学生の相互評価をどのようなウェイトをおいたらいいのか
学生の評価を単位にどのように参考にするのか

A 学生の評価はあくまでも参考にして先生がつける

A 学生の受動から能動にというのは是非評価したい

学生の客観的な力をどの程度もっているか学生のレベルを考慮しなければいけない

